住民主体によるまちづくりの必要性に対する認識

【 全 体 的 傾 向 】

住民主体によるまちづくりの必要性については「ある程度必要と思う」（51.1%）が最も高く、次いで「非常に必要だと思う」（37.4%）、「どちらとも言えない」（4.7%）と続いている。

「非常に必要だと思う」と「ある程度必要と思う」をあわせた『肯定層』（88.5%）は、「あまり必要ではない」と「ほとんど必要ではない」をあわせた『否定層』（0.5%）を大きく上回っている。

【 属 性 別 に み た 傾 向 】

- 年齢別にみると、すべての層で『肯定層』が『否定層』を上回っているが、「非常に必要だと思う」は 60 歳代（42.3%）で最も高く、10・20 歳代（24.4%）で最も低く、その差は 17.9 ポイントとなっている。
- 居住年数別にみると、すべての層で『肯定層』が『否定層』を上回っているが、「どちらとも言えない」は１年未満（15.8%）及び２年未満（10.0%）で他の層に比べて高くなっている。
- 職業別にみると、すべての職業で『肯定層』が『否定層』を上回っているが、「非常に必要だと思う」は主婦・主夫（パートなど）（42.7%）で最も高く、学生（26.1%）で最も低く、その差は 16.6 ポイントとなっている。

【 経 年 比 較 】

今年度の調査結果を、平成 26 年度調査結果と比較したところ、『肯定層』は今年度（88.5%）と平成 26 年度（89.4%）でほぼ同水準であったほか、『否定層』も今年度（0.5%）と平成 26 年度（0.5%）で同水準であり、大きな変化は見られなかった。

② 住民主体によるまちづくりへの必要性が感じられない理由

副問６－１　　問６で「３」「４」「５」を選んだ理由について、あなたのお考えに近いものを次の中から２つまで選んでください。

N：63 人

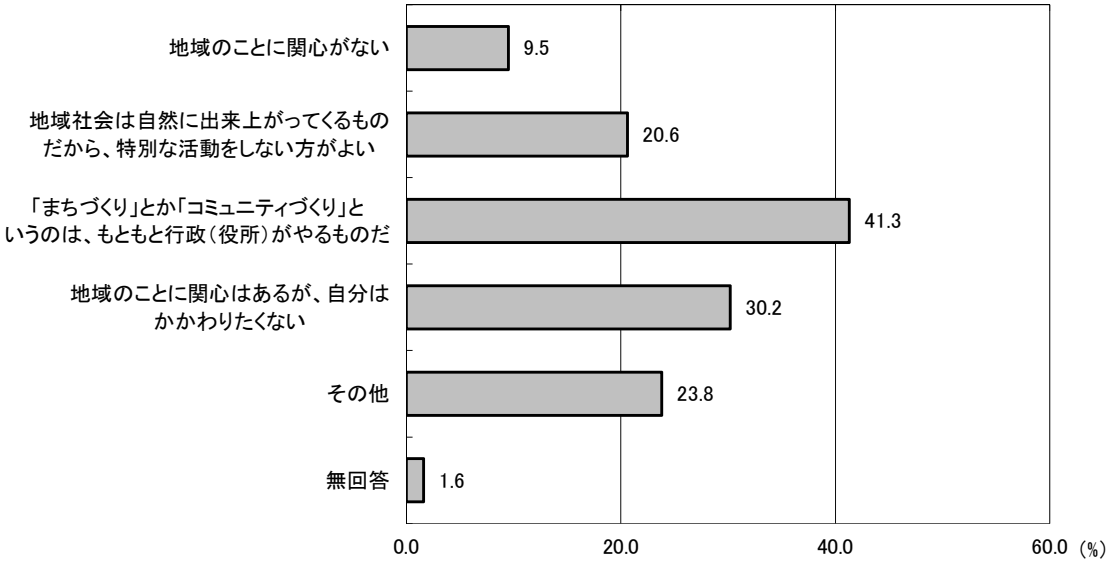
項目		回答数（人）	割合（%）
1	地域のことに関心がない	6	9.5
2	地域社会は自然に出来上がってくるものだから、特別な活動をしない方がよい	13	20.6
3	「まちづくり」とか「コミュニティづくり」というのは、もともと行政（役所）がやるものだ	26	41.3
4	地域のことに関心はあるが、自分はかかわりたくない	19	30.2
5	その他	15	23.8
	無回答	1	1.6

◇ 住民主体によるまちづくりへの必要性が感じられない理由は、

1 位　「「まちづくり」とか「コミュニティづくり」というのは、もともと行政（役所）がやるものだ」（41.3%）

2 位　「地域のことに関心はあるが、自分はかかわりたくない」（30.2%）

3 位　「その他」（23.8%）



②　住民主体によるまちづくりへの必要性が感じられない理由

		サンプル数	地域のことに関心がない	地域社会は自然に出来上がってくるものだから、特別な活動をしない方がよい	「まちづくり」とか「コミュニティづくり」というのは、もともと行政（役所）がやるものだ	地域のことに関心はあるが、自分はかかわりたくない	その他	無回答
全体		63	9.5	20.6	41.3	30.2	23.8	1.6
性別	男性	29	10.3	13.8	41.4	34.5	24.1	3.4
	女性	33	9.1	**27.3**	39.4	27.3	24.2	0.0
年齢別	10・20歳代	6	**50.0**	16.7	33.3	16.7	16.7	0.0
	30歳代	4	**25.0**	0.0	**75.0**	25.0	0.0	0.0
	40歳代	14	0.0	**35.7**	28.6	28.6	42.9	0.0
	50歳代	15	0.0	13.3	40.0	33.3	20.0	6.7
	60歳代	15	6.7	**26.7**	40.0	33.3	13.3	0.0
	70歳以上	8	12.5	12.5	**50.0**	**37.5**	37.5	0.0
居住年数別	1年未満	3	**33.3**	**33.3**	33.3	33.3	0.0	0.0
	2年未満	1	0.0	**100.0**	**100.0**	0.0	0.0	0.0
	3年未満	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5年未満	1	0.0	**100.0**	**100.0**	0.0	0.0	0.0
	10年未満	2	0.0	0.0	**100.0**	0.0	0.0	0.0
	20年未満	8	12.5	12.5	25.0	25.0	37.5	0.0
	30年未満	9	11.1	22.2	33.3	22.2	44.4	0.0
	30年以上	38	7.9	18.4	39.5	**36.8**	21.1	2.6
職業別	自営業	6	**16.7**	16.7	**66.7**	33.3	0.0	0.0
	自由業	1	0.0	0.0	**100.0**	**100.0**	0.0	0.0
	会社員	18	**22.2**	5.6	22.2	16.7	38.9	5.6
	公務員・教員	4	0.0	25.0	0.0	**75.0**	25.0	0.0
	農・林・漁業	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	主婦・主夫（パートなど）	8	0.0	**37.5**	**62.5**	12.5	25.0	0.0
	主婦・主夫（専業）	11	0.0	**27.3**	45.5	**36.4**	9.1	0.0
	学生	2	0.0	**50.0**	**50.0**	**50.0**	0.0	0.0
	無職	9	11.1	22.2	44.4	33.3	22.2	0.0
	その他	3	0.0	**33.3**	33.3	33.3	66.7	0.0
居住区別	門司区	9	11.1	22.2	**55.6**	33.3	11.1	0.0
	小倉北区	9	**22.2**	**33.3**	44.4	22.2	0.0	11.1
	小倉南区	12	**16.7**	16.7	**66.7**	33.3	8.3	0.0
	若松区	3	0.0	0.0	0.0	33.3	100.0	0.0
	八幡東区	6	0.0	**33.3**	33.3	**50.0**	16.7	0.0
	八幡西区	21	4.8	19.0	28.6	23.8	38.1	0.0
	戸畑区	3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
経年比較								
平成26年度	全体	80	13.3	16.7	23.3	**38.3**	16.7	11.7

（注）**太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの（「その他」、「無回答」は除く）

住民主体によるまちづくりへの必要性が感じられない理由

【全体的傾向】

住民主体によるまちづくりへの必要性が感じられない理由としては、「「まちづくり」とか「コミュニティづくり」というのは、もともと行政（役所）がやるものだ」（41.3%）が最も高く、次いで「地域のことに関心はあるが、自分はかかわりたくない」（30.2%）、「その他」（23.8%）と続いている。

【属性別にみた傾向】

- 性別にみると、男女ともに「「まちづくり」とか「コミュニティづくり」というのは、もともと行政（役所）がやるものだ」が最も高かった。男性では、次いで「地域のことに関心はあるが、自分はかかわりたくない」（34.5%）と続いたが、女性では「地域社会は自然に出来上がってくるものだから、特別な活動をしない方がよい」及び「地域のことに関心はあるが、自分はかかわりたくない」（ともに 27.3%）が同率で続いた。特に「地域社会は自然に出来上がってくるものだから、特別な活動をしない方がよい」は女性（27.3%）が男性（13.8%）を大きく上回った。
- 年齢別にみると、「地域社会は自然に出来上がってくるものだから、特別な活動をしない方がよい」は 40 歳代（35.7%）及び 60 歳代（26.7%）で特に高くなっている。
- 居住年数別にみると、30 年以上では、「「まちづくり」とか「コミュニティづくり」というのは、もともと行政（役所）がやるものだ」（39.5%）が最も多かった。また、「地域のことに関心はあるが、自分はかかわりたくない」（36.8%）が他の層より特に高くなっている。

【経年比較】

今年度の調査結果を、平成 26 年度調査結果と比較したところ、「「まちづくり」とか「コミュニティづくり」というのは、もともと行政（役所）がやるものだ」は今年度（41.3%）が平成 26 年度（23.3%）を大きく上回ったのに対し、「地域のことに関心はあるが、自分はかかわりたくない」は今年度（30.2%）が平成 26 年度（38.3%）を下回っている。また、「その他」は今年度（23.8%）が平成 26 年度（16.7%）を上回っている。

【自由記入欄の回答状況】

自由記入欄には以下のような意見や感想があった。

- 住民の高齢化で機能していない
- 住民主体のまちづくりはやれることの限界があり、一歩踏み込んだ行政の支援が必要
- 自主的な参加は必要だと思うが、色々な考え方があり参加に消極的な人もいる
- 昼間の活動は仕事があるため参加できない
- プライバシーに踏み込んだ活動が多く、受け入れる人は少ないのではないか。また、地域の人間関係に問題がある場合もある

（４）市民センターについて

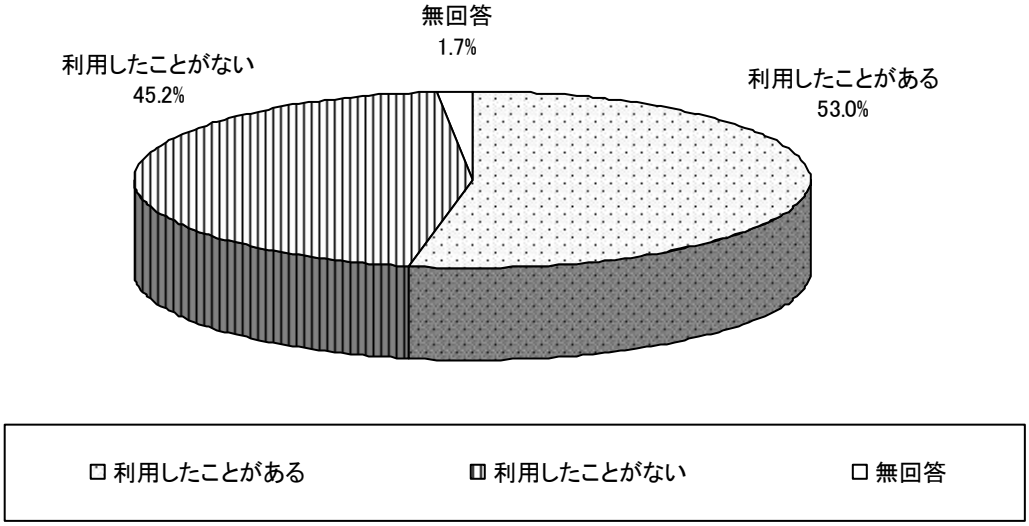
①　市民センターの利用状況

問７　　あなたは、市民センターを利用したことがありますか。どちらか１つだけ選んでください。

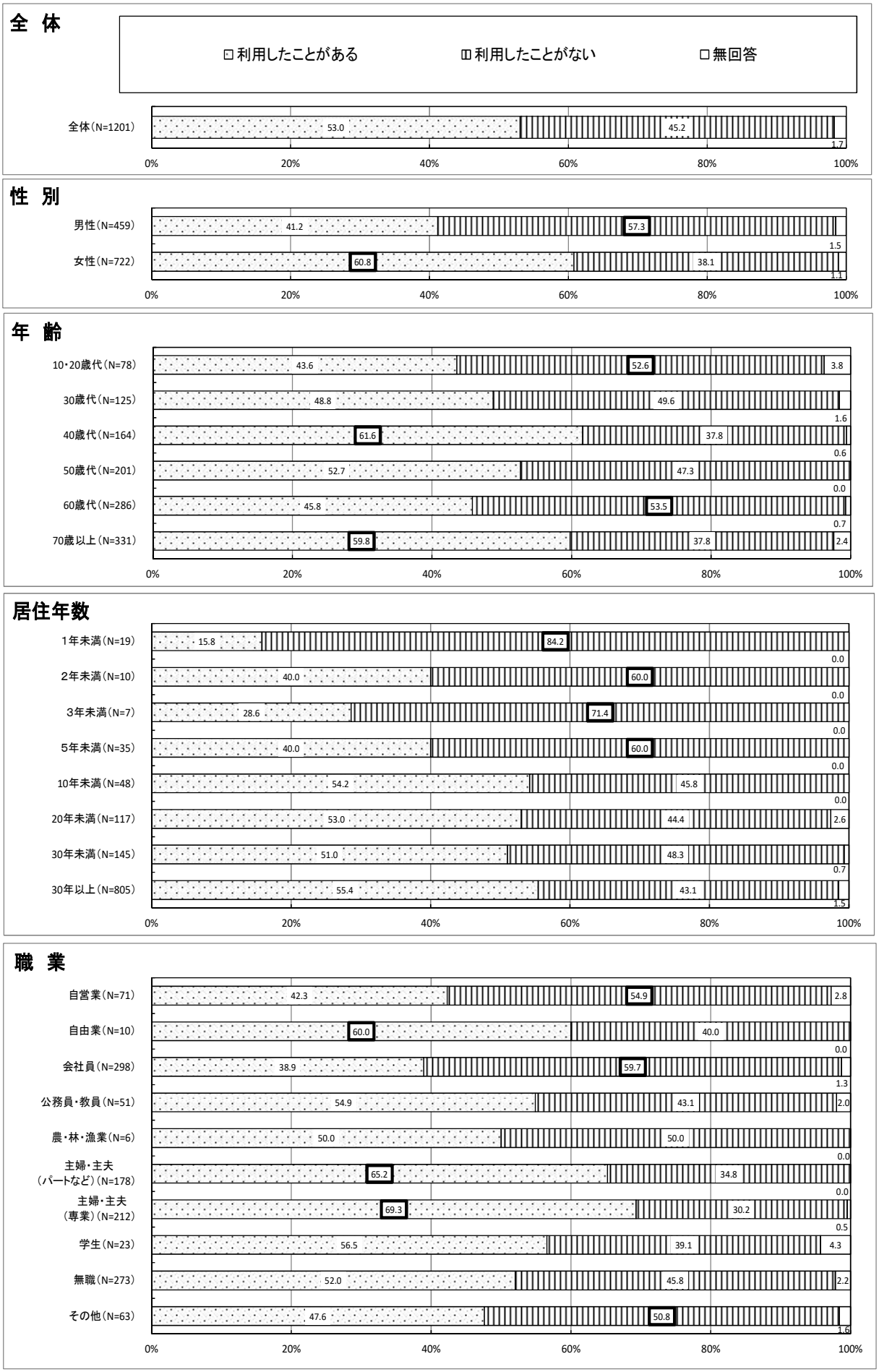
Ｎ：1,201 人

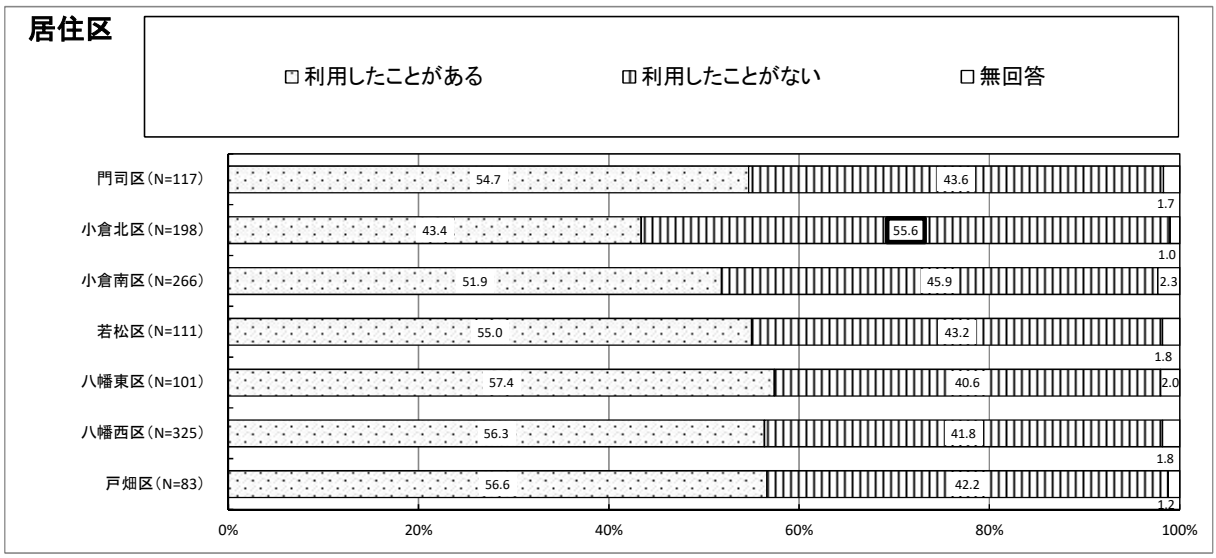
項目	回答数（人）	割合（%）
１　利用したことがある	637	53.0
２　利用したことがない	543	45.2
無回答	21	1.7

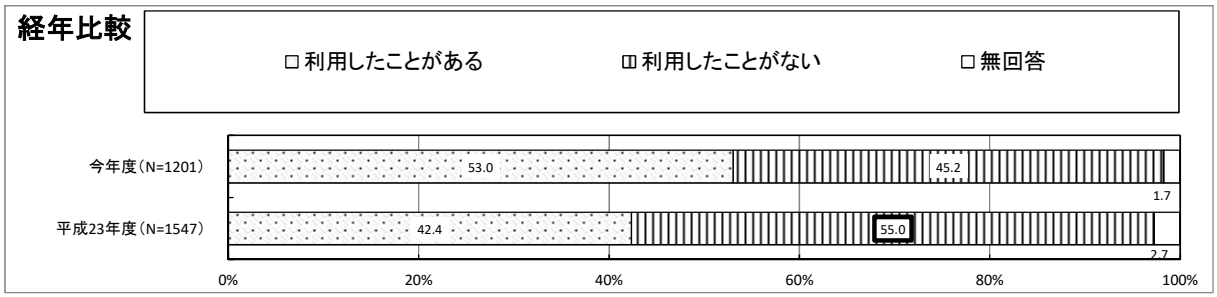
◇　市民センターを、
　１位　「利用したことがある」(53.0%)
　２位　「利用したことがない」(45.2%)



①　市民センターの利用状況







（注）　経年比較の平成 23 年度の「利用したことがない」は、「利用してはいないが、よく知っている」（28.4%）、「ほとんど知らないが、聞いたことがある」（18.0%）及び「まったく知らない」（8.6%）の合計を表示している。

（注）　**太枠**　全体よりも 5 ポイント以上高いもの（「その他」、「無回答」は除く）

市民センターの利用状況

【 全 体 的 傾 向 】

市民センターの利用状況については「利用したことがある」(53.0%) が「利用したことがない」(45.2%) を上回っている。

【 属 性 別 に み た 傾 向 】

- 性別にみると、男性では「利用したことがない」(57.3%) が「利用したことがある」(41.2%) を上回ったのに対し、女性では「利用したことがある」(60.8%) が「利用したことがない」(38.1%) を上回っている。
- 年齢別にみると、10・20 歳代、30 歳代及び 60 歳代では「利用したことがない」が「利用したことがある」を上回ったのに対し、それ以外の層では「利用したことがある」が「利用したことがない」を上回っている。
- 居住年数別にみると、５年未満以下の層では「利用したことがない」が「利用したことがある」を上回ったのに対し、10 年未満以上の層では「利用したことがある」が「利用したことがない」を上回っている。
- 職業別にみると、自営業、会社員及びその他で「利用したことがない」が「利用したことがある」を上回ったのに対し、それ以外の職業では「利用したことがある」が「利用したことがない」を上回っている。
- 居住区別にみると、唯一、小倉北区で「利用したことがない」(55.6%) が「利用したことがある」(43.4%) を上回っている。

【 経 年 比 較 】

今年度の調査結果を、平成 23 年度調査結果と比較したところ、「利用したことがある」は今年度(53.0%)が平成 23 年度(42.4%)を上回ったのに対し、「利用したことがない」は今年度(45.2%)が平成 23 年度 (55.0%) を下回り、以前より市民センターを利用したことがある人の割合が高まっている。

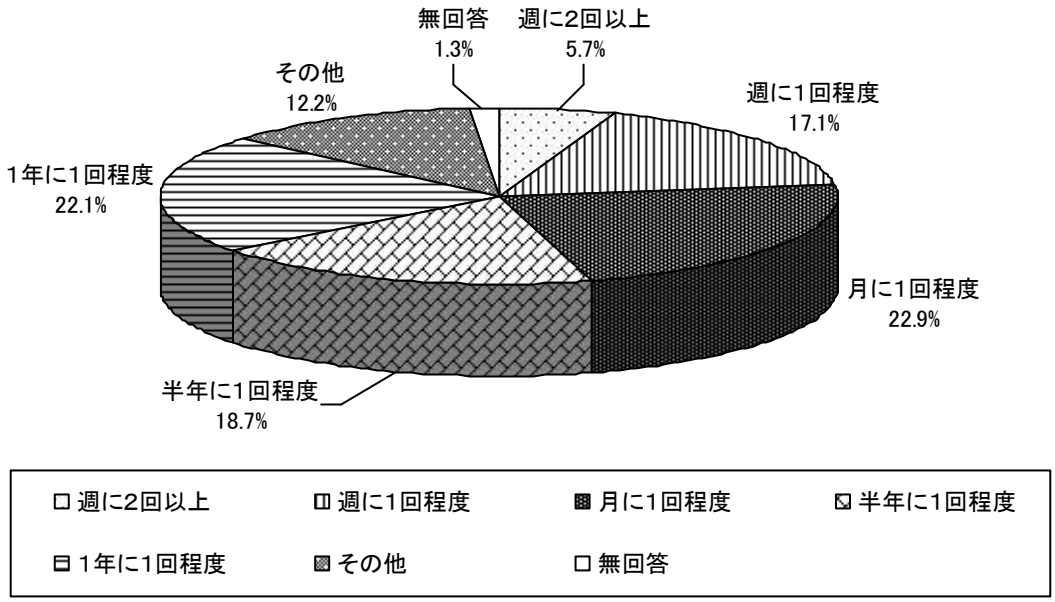
② 市民センターの利用頻度

副問７－１　　問７で「１」を選んだ方におたずねします。あなたは、どのくらいの頻度で市民センターを利用していますか。次の中から１つだけ選んでください。

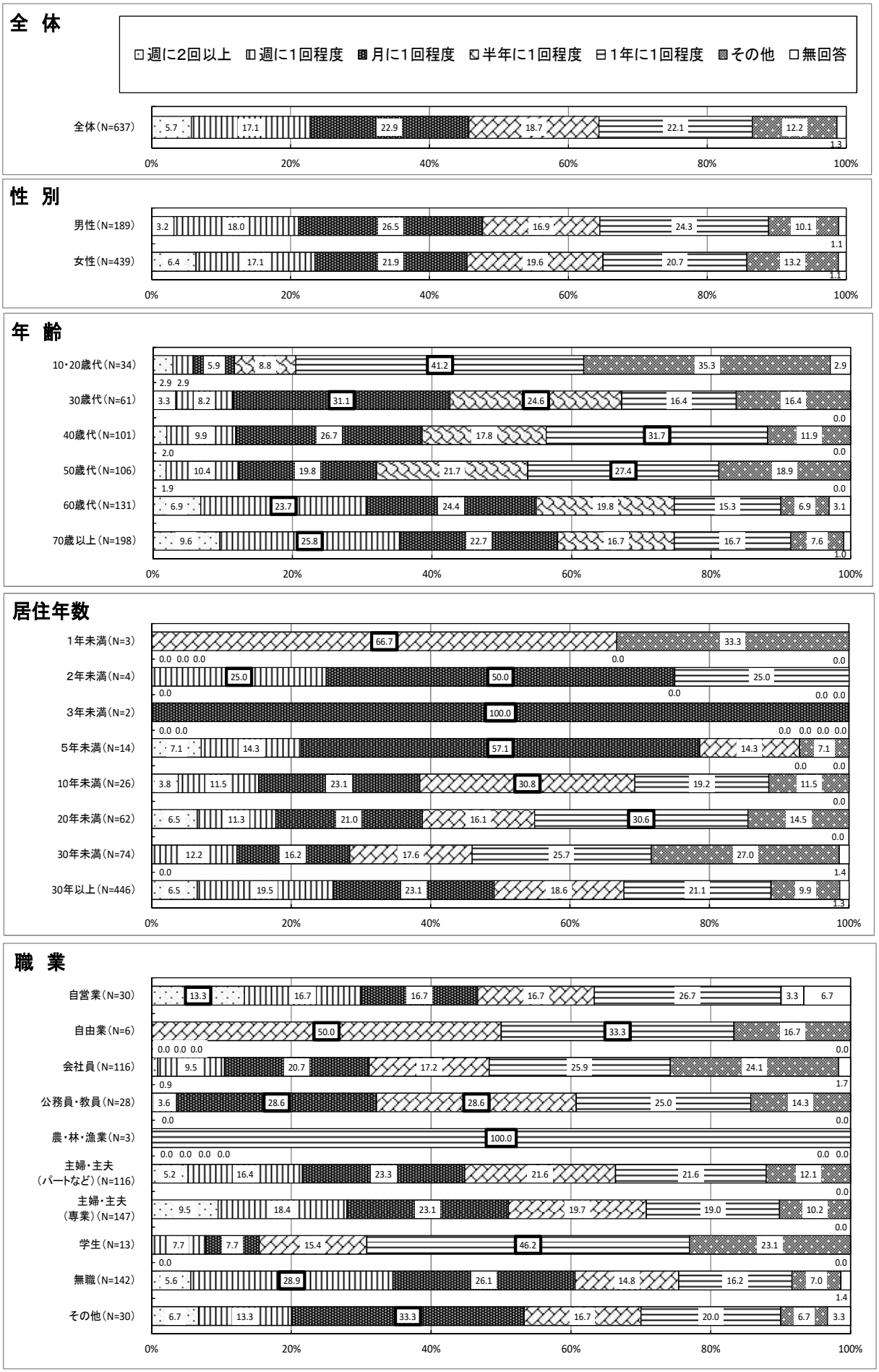
N：637 人

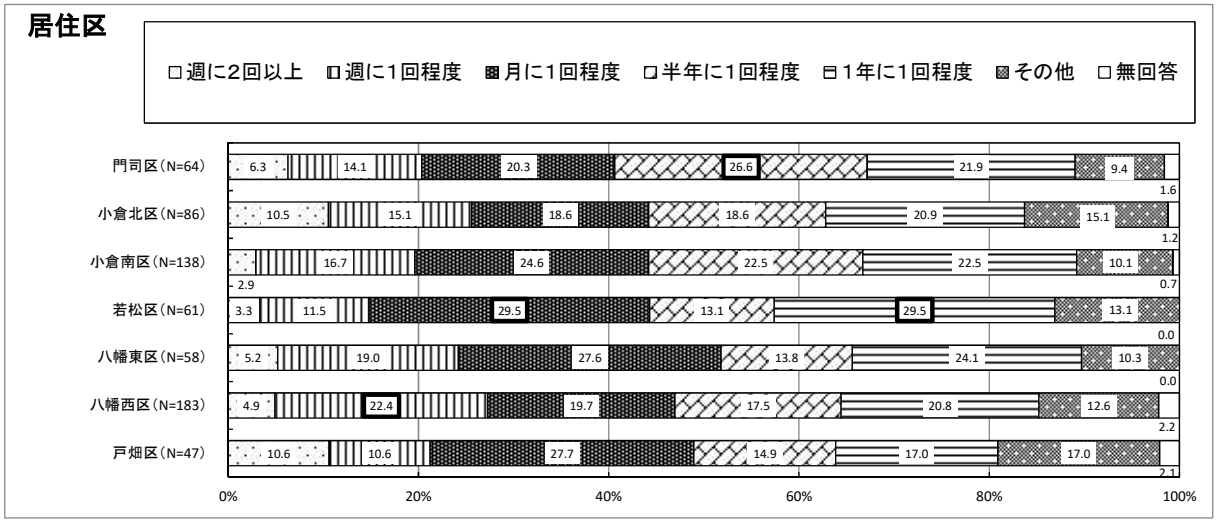
項目	回答数（人）	割合（%）
１　週に２回以上	36	5.7
２　週に１回程度	109	17.1
３　月に１回程度	146	22.9
４　半年に１回程度	119	18.7
５　１年に１回程度	141	22.1
６　その他	78	12.2
無回答	8	1.3

◇　市民センターの利用頻度は、
　１位　「月に１回程度」(22.9%)
　２位　「１年に１回程度」(22.1%)
　３位　「半年に１回程度」(18.7%)



②　市民センターの利用頻度





（注） **太枠** 全体よりも５ポイント以上高いもの（「その他」、「無回答」は除く）

市民センターの利用頻度

【 全 体 的 傾 向 】

市民センターを利用したことがある人の、利用頻度は、「月に１回程度」（22.9%）が最も高く、次いで「１年に１回程度」（22.1%）、「半年に１回程度」（18.7%）と続いている。「週に２回以上」、「週に１回程度」及び「月に１回程度」をあわせた『月に１回以上』は 45.7%を占めている。

【 属 性 別 に み た 傾 向 】

- 年齢別にみると、『月に１回以上』は 60 歳代（55.0%）及び 70 歳以上（58.1%）で特に高くなっている。
- 居住年数別にみると、『月に１回以上』は５年未満（78.5%）で特に高くなっている。
- 職業別にみると、『月に１回以上』は無職（60.6%）及びその他（53.3%）で特に高くなっている。
- 居住区別にみると、『月に１回以上』は八幡東区（51.8%）で最も高く、門司区（40.7%）で最も低く、その差は 11.1 ポイントとなっている。

【 自 由 記 入 欄 の 回 答 状 況 】

自由記入欄には以下のような意見や感想があった。

- 子育て期間中は利用する事が何度かあったが、それ以後は利用する事がない。また、仕事をしていると習い事も土日夜しか行えず、利用するチャンスがない
- 市政だよりを見てイベントの際に利用
- 日曜日が休館になってから利用していない
- 選挙の時のみ利用

③　市民センターの主な利用用途

副問７－２	問７で「１」を選んだ方におたずねします。あなたは市民センターをどのような活動で利用していますか。次の中から主なものを３つまで選んでください。

Ｎ：637 人

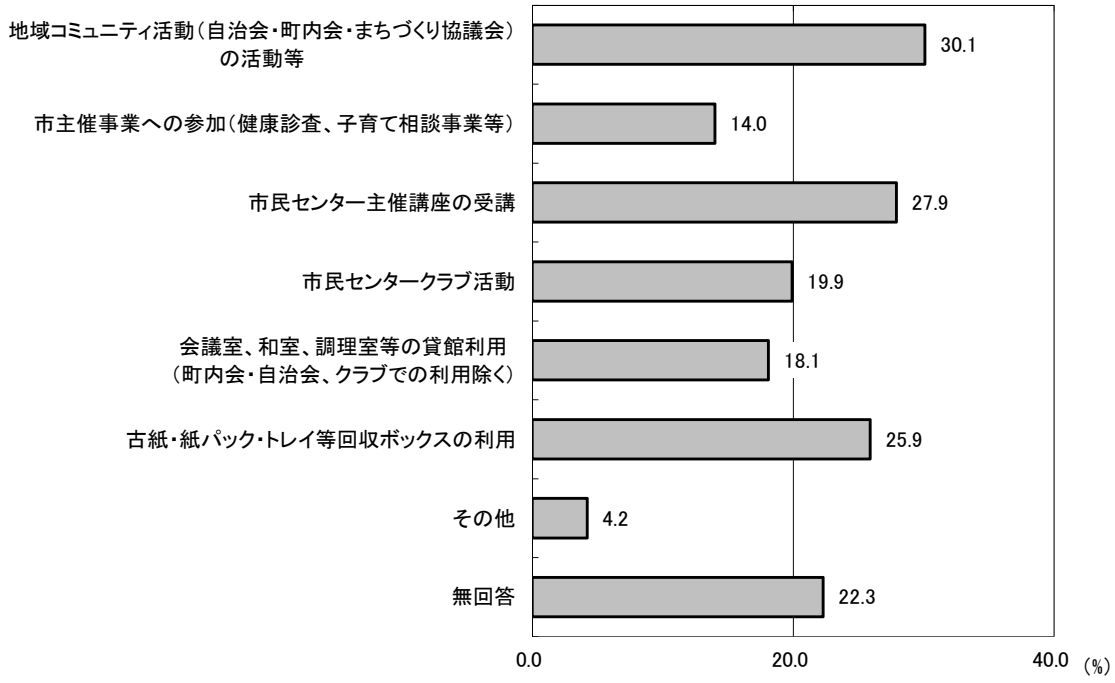
項目		回答数（人）	割合（%）
1	地域コミュニティ活動（自治会・町内会・まちづくり協議会）の活動等	192	30.1
2	市主催事業への参加（健康診査、子育て相談事業等）	89	14.0
3	市民センター主催講座の受講	178	27.9
4	市民センタークラブ活動	127	19.9
5	会議室、和室、調理室等の貸館利用（町内会・自治会、クラブでの利用除く）	115	18.1
6	古紙・紙パック・トレイ等回収ボックスの利用	165	25.9
7	その他	27	4.2
	無回答	142	22.3

◇　市民センターの主な利用用途は、

1 位　「地域コミュニティ活動（自治会・町内会・まちづくり協議会）の活動等」（30.1%）

2 位　「市民センター主催講座の受講」（27.9%）

3 位　「古紙・紙パック・トレイ等回収ボックスの利用」（25.9%）


地域コミュニティ活動（自治会・町内会・まちづくり協議会）の活動等
30.1
市主催事業への参加（健康診査、子育て相談事業等）
14.0
市民センター主催講座の受講
27.9
市民センタークラブ活動
19.9
会議室、和室、調理室等の貸館利用（町内会・自治会、クラブでの利用除く）
18.1
古紙・紙パック・トレイ等回収ボックスの利用
25.9
その他
4.2
無回答
22.3
0.0
20.0
40.0
（%）

③　市民センターの主な利用用途

		サンプル数	地域コミュニティ活動（自治会・町内会・まちづくり協議会）の活動等	市主催事業への参加（健康診査、子育て相談事業等）	市民センター主催講座の受講	市民センタークラブ活動	会議室、和室、調理室等の貸館利用（町内会・自治会、クラブでの利用除く）	古紙・紙パック・トレイ等回収ボックスの利用	その他	無回答
全体		637	30.1	14.0	27.9	19.9	18.1	25.9	4.2	22.3
性別	男性	189	**38.1**	11.6	28.0	20.6	19.0	25.9	3.7	19.0
	女性	439	26.4	15.0	28.0	19.8	17.5	26.0	4.1	23.7
年齢別	10・20歳代	34	29.4	5.9	20.6	17.6	8.8	20.6	2.9	26.5
	30歳代	61	18.0	**31.1**	16.4	9.8	18.0	21.3	1.6	27.9
	40歳代	101	31.7	10.9	17.8	16.8	**25.7**	**35.6**	7.9	13.9
	50歳代	106	29.2	9.4	22.6	11.3	**24.5**	26.4	4.7	24.5
	60歳代	131	34.4	16.8	28.2	18.3	16.0	23.7	3.8	24.4
	70歳以上	198	30.3	12.1	**40.4**	**30.8**	13.6	24.7	3.5	21.2
居住年数別	1年未満	3	0.0	0.0	**66.7**	**33.3**	0.0	**66.7**	0.0	0.0
	2年未満	4	**50.0**	0.0	0.0	**25.0**	**50.0**	**75.0**	0.0	0.0
	3年未満	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	5年未満	14	21.4	14.3	7.1	21.4	14.3	**57.1**	7.1	21.4
	10年未満	26	15.4	**26.9**	7.7	11.5	7.7	30.8	7.7	23.1
	20年未満	62	33.9	**21.0**	27.4	12.9	21.0	25.8	3.2	11.3
	30年未満	74	24.3	6.8	24.3	21.6	14.9	24.3	5.4	27.0
	30年以上	446	31.6	13.7	30.5	21.1	18.8	24.4	4.0	22.9
職業別	自営業	30	**36.7**	6.7	30.0	10.0	10.0	**33.3**	6.7	20.0
	自由業	6	**50.0**	**33.3**	**33.3**	0.0	**33.3**	16.7	0.0	0.0
	会社員	116	30.2	12.9	19.8	12.9	19.0	16.4	4.3	25.0
	公務員・教員	28	**35.7**	10.7	17.9	3.6	**25.0**	**32.1**	14.3	17.9
	農・林・漁業	3	33.3	**33.3**	0.0	0.0	0.0	**33.3**	0.0	0.0
	主婦・主夫（パートなど）	116	25.9	13.8	23.3	15.5	**24.1**	27.6	4.3	24.1
	主婦・主夫（専業）	147	28.6	17.7	30.6	**26.5**	12.2	**34.7**	4.1	19.7
	学生	13	**38.5**	0.0	30.8	**30.8**	7.7	30.8	0.0	23.1
	無職	142	29.6	12.0	**39.4**	**26.8**	16.9	21.8	3.5	23.9
	その他	30	33.3	**20.0**	16.7	**26.7**	**30.0**	20.0	0.0	20.0
居住区別	門司区	64	21.9	7.8	**39.1**	20.3	**25.0**	29.7	1.6	17.2
	小倉北区	86	31.4	**19.8**	30.2	20.9	18.6	**32.6**	9.3	14.0
	小倉南区	138	28.3	13.8	31.2	18.8	15.2	28.3	4.3	24.6
	若松区	61	**36.1**	**24.6**	32.8	16.4	16.4	16.4	3.3	24.6
	八幡東区	58	29.3	12.1	24.1	13.8	20.7	19.0	6.9	25.9
	八幡西区	183	30.1	12.0	20.8	22.4	14.8	24.6	2.7	26.2
	戸畑区	47	**38.3**	8.5	25.5	23.4	**27.7**	27.7	2.1	14.9

（注）**太字**　全体よりも5ポイント以上高いもの（「その他」、「無回答」は除く）

③　市民センターの主な利用用途（経年比較）

		サンプル数	地域コミュニティ活動（自治会・町内会・まちづくり協議会）の活動等	市主催事業への参加（健康診査、子育て相談事業等）	市民センター主催講座の受講、もしくは、市民センタークラブ活動	古紙・紙パック・トレイ等回収ボックスの利用
今年度	全体	637	30.1	14.0	40.7	25.9
平成23年度	全体	1,547	**39.9**	**28.6**	44.3	27.0

（注）**太字** 今年度よりも5ポイント以上高いもの

（注）　経年比較の今年度および平成 23 年度は、以下のように再分類し、再集計している。

今年度（副問 7-2）	平成 23 年度（問 11）
「地域コミュニティ活動（自治会・町内会・まちづくり協議会）の活動等」と回答	「コミュニティ活動」、もしくは「地域防災活動」と回答
「市主催事業への参加（健康診査、子育て相談事業等)」と回答	「保健福祉活動」と回答
「市民センター主催講座の受講」、もしくは「市民センタークラブ活動」と回答	「生涯学習活動」と回答
「古紙・紙パック・トレイ等回収ボックスの利用」と回答	「環境・リサイクル活動」と回答

市民センターの主な利用用途

【 全 体 的 傾 向 】

市民センターの主な利用用途は、「地域コミュニティ活動（自治会・町内会・まちづくり協議会）の活動等」（30.1%）が最も高く、次いで「市民センター主催講座の受講」（27.9%）、「古紙・紙パック・トレイ等回収ボックスの利用」（25.9%）と続いている。

【 属 性 別 に み た 傾 向 】

- 性別にみると、「地域コミュニティ活動（自治会・町内会・まちづくり協議会）の活動等」は男性（38.1%）が女性（26.4%）を上回った。
- 年齢別にみると、「市民センター主催講座の受講」は 70 歳以上（40.4%）、「古紙・紙パック・トレイ等回収ボックスの利用」は 40 歳代（35.6%）で特に高くなっている。また、「市主催事業への参加（健康診査、子育て相談事業等）」は 30 歳代（31.1%）が他の年齢層に比べて高かった。
- 職業別にみると、「地域コミュニティ活動（自治会・町内会・まちづくり協議会）の活動等」は学生（38.5%）、自営業（36.7%）及び公務員・教員（35.7%）で特に高く、「市民センター主催講座の受講」は無職（39.4%）、「古紙・紙パック・トレイ等回収ボックスの利用」は主婦・主夫（専業）（34.7%）、自営業（33.3%）及び公務員・教員（32.1%）で特に高くなっている。
- 居住区別にみると、「地域コミュニティ活動（自治会・町内会・まちづくり協議会）の活動等」は戸畑区（38.3%）で最も高く、門司区（21.9%）で最も低く、その差は 16.4 ポイントとなった。一方、「市民センター主催講座の受講」は門司区（39.1%）で最も高く、八幡西区（20.8%）で最も低く、その差は 18.3 ポイントとなった。また、「古紙・紙パック・トレイ等回収ボックスの利用」は小倉北区（32.6%）で最も高く、若松区（16.4%）で最も低く、その差は 16.2 ポイントとなった。

【 経 年 比 較 】

今年度の調査結果と平成 23 年度調査結果と比較するため、再分類した上で、再集計した。その結果、「市民センター主催講座の受講、もしくは、市民センタークラブ活動」が今年度、平成 23 年度ともに最も高く、いずれも４割以上となっている。なお、「地域コミュニティ活動（自治会・町内会・まちづくり協議会）の活動等」は、今年度（30.1%）が平成 23 年度（39.9%）を大きく下回り、「市主催事業への参加（健康診査、子育て相談事業等）」も今年度（14.0%）が平成 23 年度（28.6%）を大きく下回っている。

【 自 由 記 入 欄 の 回 答 状 況 】

自由記入欄には以下のような意見や感想があった。

- ＰＴＡ活動で利用
- 障がい者の支援活動
- 学校行事で利用
- バザー、老人会等で利用

④　市民センターを利用しない理由

副問７－３	問７で「２」を選んだ方におたずねします。あなたが市民センターを利用しない理由について、最も当てはまるものを次の中から１つだけ選んでください。

N：543 人

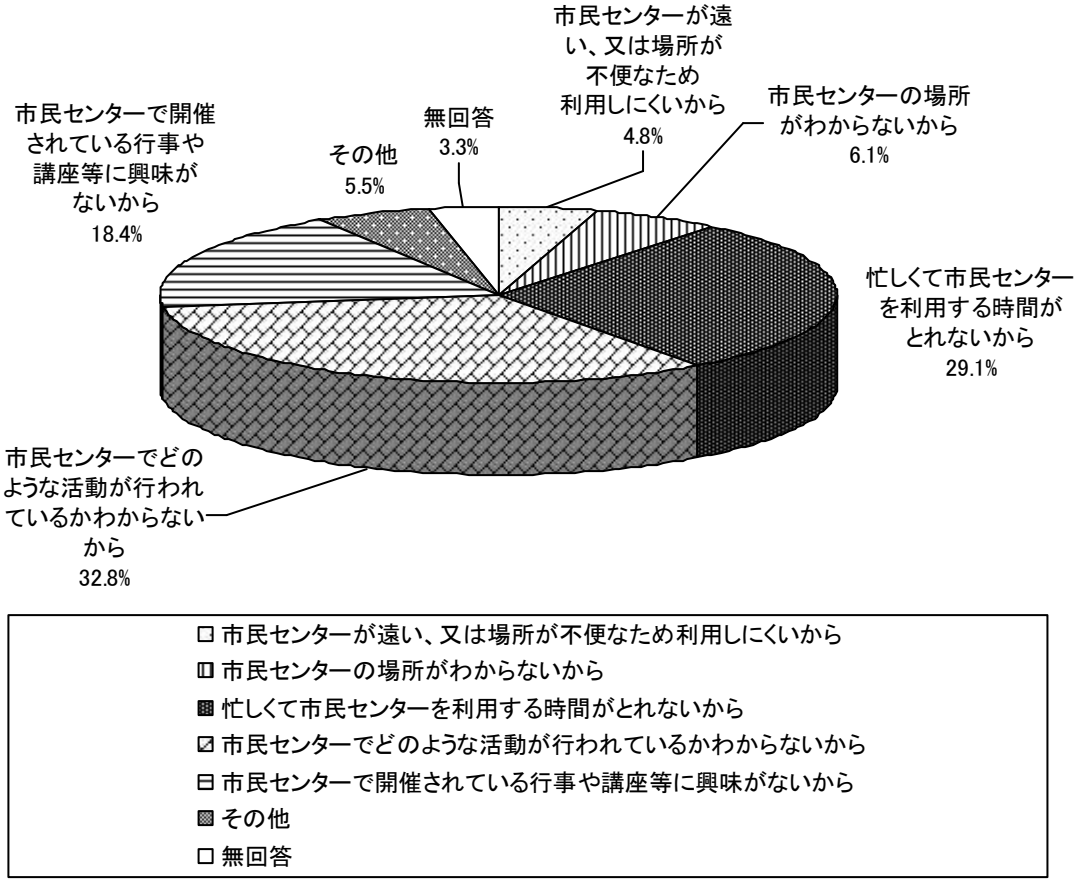
項目		回答数（人）	割合（%）
1	市民センターが遠い、又は場所が不便なため利用しにくいから	26	4.8
2	市民センターの場所がわからないから	33	6.1
3	忙しくて市民センターを利用する時間がとれないから	158	29.1
4	市民センターでどのような活動が行われているかわからないから	178	32.8
5	市民センターで開催されている行事や講座等に興味がないから	100	18.4
6	その他	30	5.5
	無回答	18	3.3

◇　市民センターを利用しない理由は、

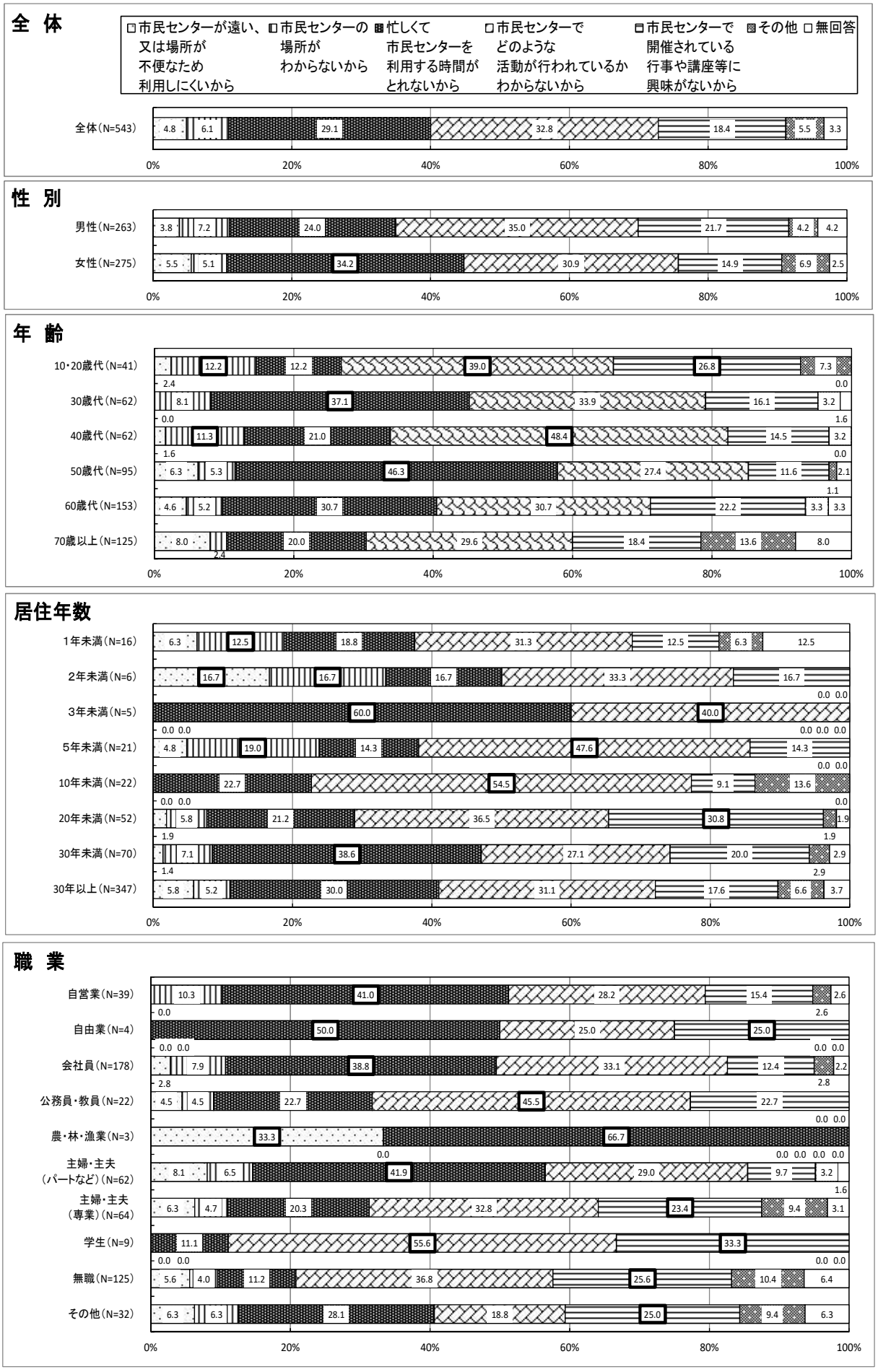
1 位　「市民センターでどのような活動が行われているかわからないから」（32.8%）

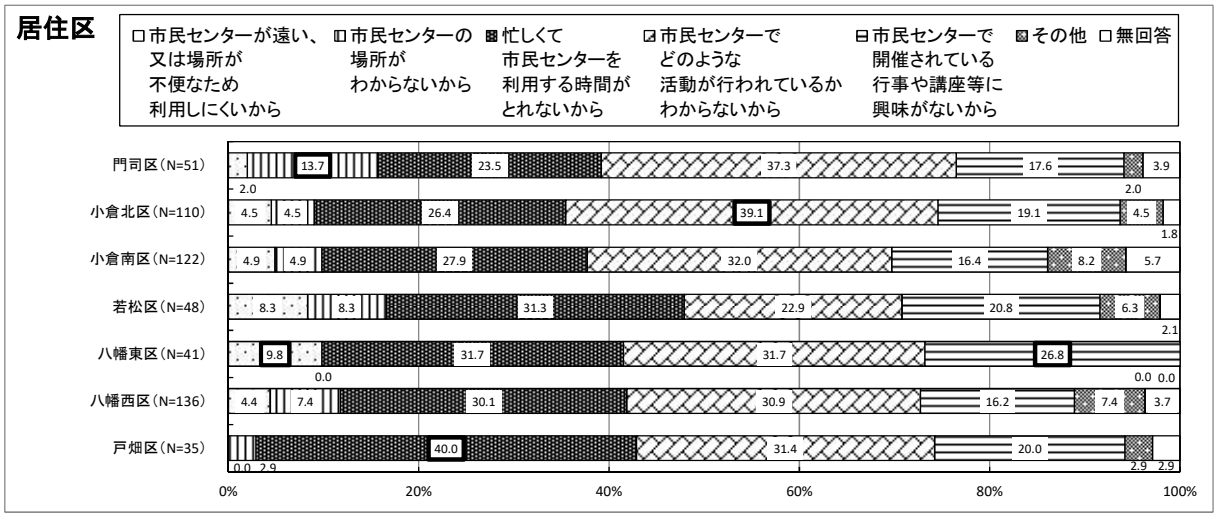
2 位　「忙しくて市民センターを利用する時間がとれないから」（29.1%）

3 位　「市民センターで開催されている行事や講座等に興味がないから」（18.4%）


市民センターが遠い、又は場所が不便なため利用しにくいから
4.8%
市民センターの場所がわからないから
6.1%
忙しくて市民センターを利用する時間がとれないから
29.1%
市民センターでどのような活動が行われているかわからないから
32.8%
市民センターで開催されている行事や講座等に興味がないから
18.4%
その他
5.5%
無回答
3.3%
市民センターが遠い、又は場所が不便なため利用しにくいから
市民センターの場所がわからないから
忙しくて市民センターを利用する時間がとれないから
市民センターでどのような活動が行われているかわからないから
市民センターで開催されている行事や講座等に興味がないから
その他
無回答

④　市民センターを利用しない理由





（注） **太枠** 全体よりも 5 ポイント以上高いもの（「その他」、「無回答」は除く）

④ 市民センターを利用しない理由（経年比較）

		サンプル数	市民センターが遠い、又は場所が不便なため利用しにくいから、もしくは、市民センターの場所がわからないから	市民センターで開催されている行事や講座等に興味がないから、もしくは、市民センターでどのような活動が行われているかわからないから	忙しくて市民センターを利用する時間がとれないから
今年度	全体	543	10.9	51.2	29.1
平成23年度	全体	717	**35.1**	40.6	**46.3**

（注） **太字** 今年度よりも5ポイント以上高いもの

（注） 経年比較の今年度および平成 23 年度は、以下のように再分類し、再集計している。

今年度（副問 7-3）	平成 23 年度（副問 10-1）
「市民センターが遠い、又は場所が不便なため利用しにくいから」、もしくは「市民センターの場所がわからないから」と回答	「利用方法が分からない」、もしくは「場所が不便である」と回答
「市民センターで開催されている行事や講座等に興味がないから」、もしくは「市民センターでどのような活動が行われているかわからないから」と回答	「興味のある行事や講座等がない」、もしくは「地域の行事等に関心がない」と回答
「忙しくて市民センターを利用する時間がとれないから」と回答	「利用する時間がない」と回答

なお、平成 23 年度（副問 10-1）は複数回答のため、割合の合計は 100.0（%）を超えており、今年度とアンケート集計の方法が異なっている。

市民センターを利用しない理由

【全体的傾向】

市民センターを利用しない理由は、「市民センターでどのような活動が行われているかわからないから」（32.8%）が最も高く、次いで「忙しくて市民センターを利用する時間がとれないから」（29.1%）、「市民センターで開催されている行事や講座等に興味がないから」（18.4%）と続いている。

【属性別にみた傾向】

- 年齢別にみると、「市民センターでどのような活動が行われているかわからないから」は40歳代（48.4%）及び10・20歳代（39.0%）で特に高くなっている。また、「忙しくて市民センターを利用する時間がとれないから」は50歳代（46.3%）及び30歳代（37.1%）で特に高くなっている。
- 職業別にみると、「市民センターでどのような活動が行われているかわからないから」は公務員・教員（45.5%）で特に高く、「忙しくて市民センターを利用する時間がとれないから」は主婦・主夫（パートなど）（41.9%）及び自営業（41.0%）で特に高くなっている。
- 居住区別にみると、「市民センターでどのような活動が行われているかわからないから」は小倉北区（39.1%）で特に高く、「忙しくて市民センターを利用する時間がとれないから」は戸畑区（40.0%）、「市民センターで開催されている行事や講座等に興味がないから」は八幡東区（26.8%）で特に高くなっている。

【経年比較】

今年度の調査結果と平成23年度調査結果と比較するため、再分類した上で、再集計した。その結果、「市民センターで開催されている行事や講座等に興味がないから、もしくは、市民センターでどのような活動が行われているかわからないから」は今年度（51.2%）が平成23年度（40.6%）を上回った。一方、「忙しくて市民センターを利用する時間がとれないから」は今年度（29.1%）が平成23年度（46.3%）を下回り、「市民センターが遠い、又は場所が不便なため利用しにくいから、もしくは、市民センターの場所がわからないから」も今年度（10.9%）が平成23年度（35.1%）を下回っている。

【自由記入欄の回答状況】

自由記入欄には以下のような意見や感想があった。

- 高齢者を対象としたイベントが多く、若い人を対象としたものが殆どないから
- 常連さんのグループが多くて利用しにくい。もう少し窓口を広げてほしい
- 公民館が近いので、いつも公民館を利用している
- 利用したいが講座等の日程、時間が合わない
- 高齢により歩行困難なため、あまり利用していない

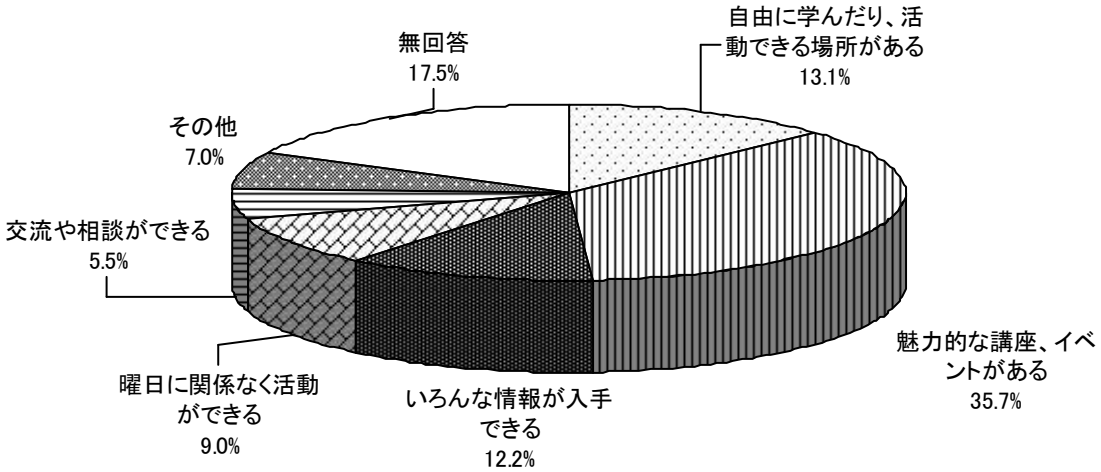
⑤　市民センターを利用しない人が要望するサービス

副問７－４　　問７で「２」を選んだ方におたずねします。あなたはどのような市民センターであれば行ってみたいと思いますか。次の中から最も当てはまるものを１つだけ選んでください。

Ｎ：543 人

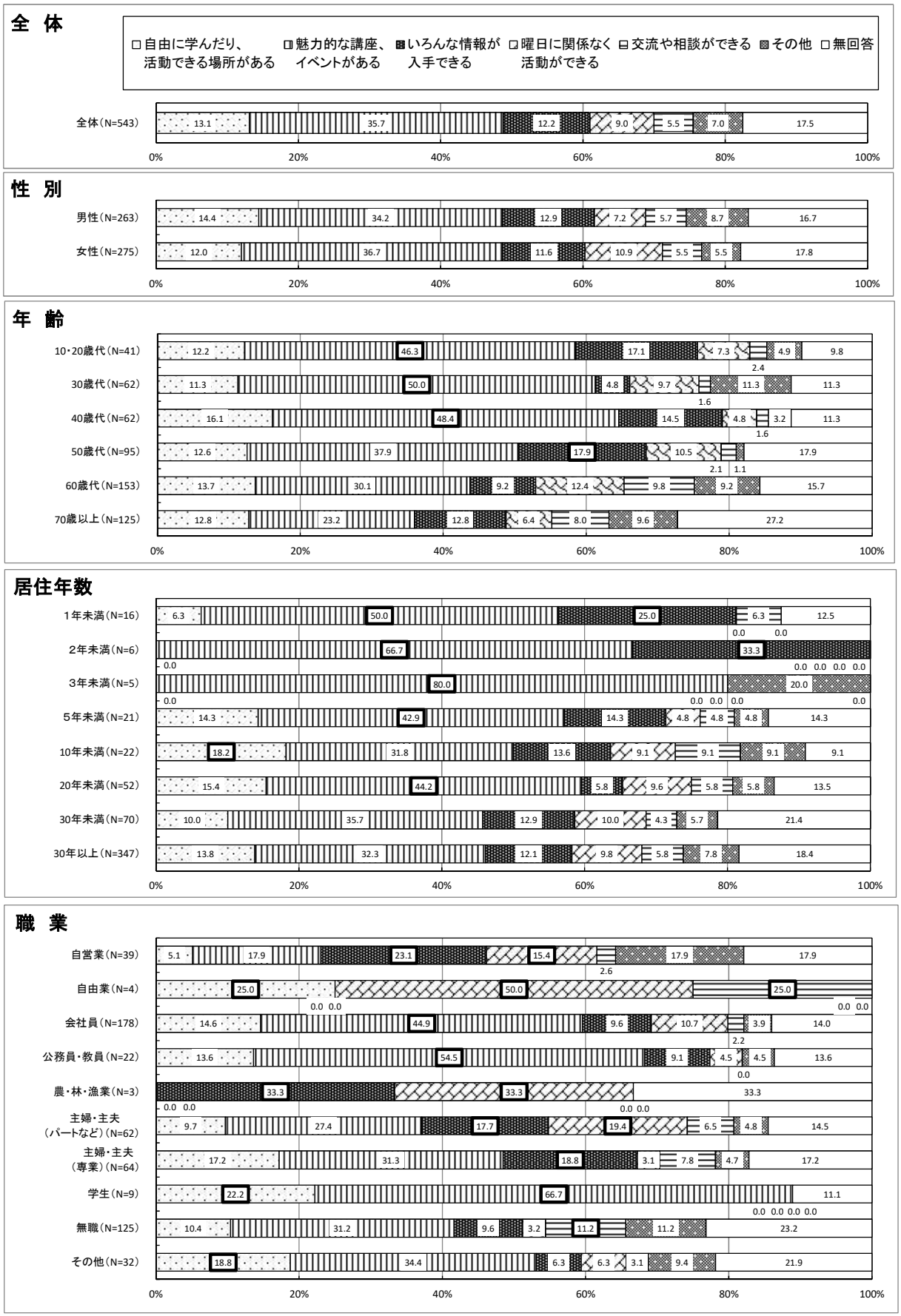
項目	回答数（人）	割合（%）
１　自由に学んだり、活動できる場所がある	71	13.1
２　魅力的な講座、イベントがある	194	35.7
３　いろんな情報が入手できる	66	12.2
４　曜日に関係なく活動ができる	49	9.0
５　交流や相談ができる	30	5.5
６　その他	38	7.0
無回答	95	17.5

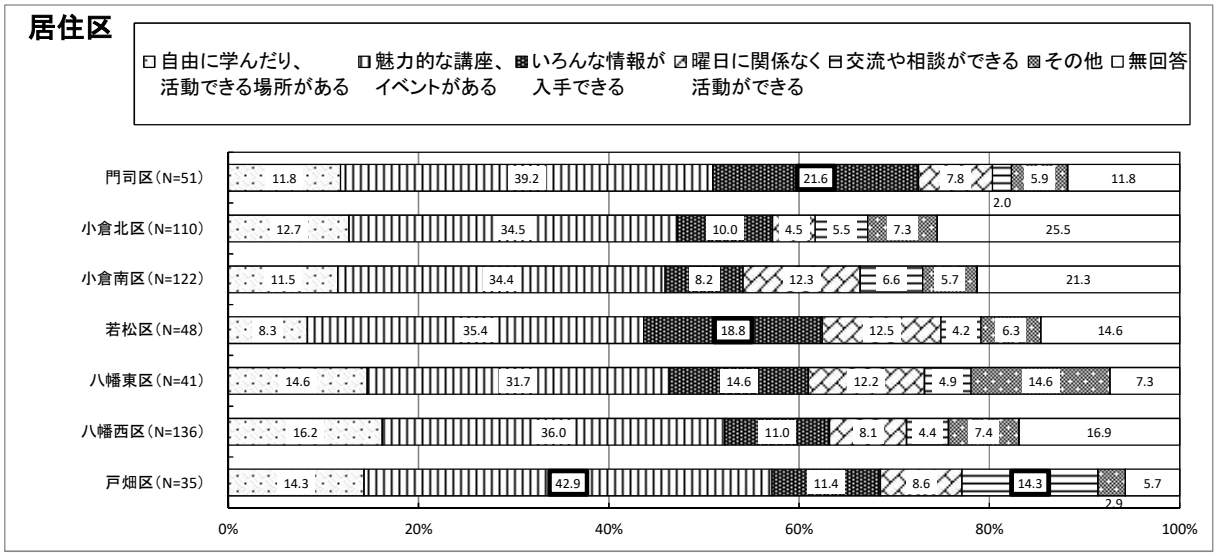
◇　市民センターを利用したことがない人が要望するサービスは、
　１位　「魅力的な講座、イベントがある」(35.7%)
　２位　「自由に学んだり、活動できる場所がある」(13.1%)
　３位　「いろんな情報が入手できる」(12.2%)



□ 自由に学んだり、活動できる場所がある　▥ 魅力的な講座、イベントがある
▩ いろんな情報が入手できる　▨ 曜日に関係なく活動ができる
▤ 交流や相談ができる　▧ その他
□ 無回答

⑤　市民センターを利用しない人が要望するサービス





（注） **太枠** 全体よりも 5 ポイント以上高いもの（「その他」、「無回答」は除く）

市民センターを利用しない人が要望するサービス

【全体的傾向】

市民センターを利用しない人が要望するサービスは、「魅力的な講座、イベントがある」(35.7%)が最も高く、次いで「自由に学んだり、活動できる場所がある」(13.1%)、「いろんな情報が入手できる」(12.2%)と続いている。

【属性別にみた傾向】

- 年齢別にみると、「魅力的な講座、イベントがある」は30歳代(50.0%)、40歳代(48.4%)及び10・20歳代(46.3%)で特に高く、若い世代に多い傾向が見られた。
- 職業別にみると、「魅力的な講座、イベントがある」は公務員・教員(54.5%)及び会社員(44.9%)で特に高くなっている。また、「いろんな情報が入手できる」は自営業(23.1%)、主婦・主夫(専業)(18.8%)及び主婦・主夫(パートなど)(17.7%)で特に高くなっている。
- 居住区別にみると、「魅力的な講座、イベントがある」は戸畑区(42.9%)及び門司区(39.2%)で高く、「自由に学んだり、活動できる場所がある」は八幡西区(16.2%)、「いろんな情報が入手できる」は門司区(21.6%)で特に高くなっている。

【自由記入欄の回答状況】

自由記入欄には以下のような意見や感想があった。

- フリーマーケット
- 現役世代でも利用可能な夜間での活動がある
- 野球などのスポーツができる

（５）生涯学習について

①　生涯学習で学んだ知識や技術等を、地域や社会の課題解決に活かす方法

問８　　生涯学習で学んだ知識や技術等が、地域や社会の課題解決に活かされることが、一層求められていますが、あなたはこの仕組みに関してどのようなことを望みますか。３つまで選んでください。

Ｎ：1,201 人

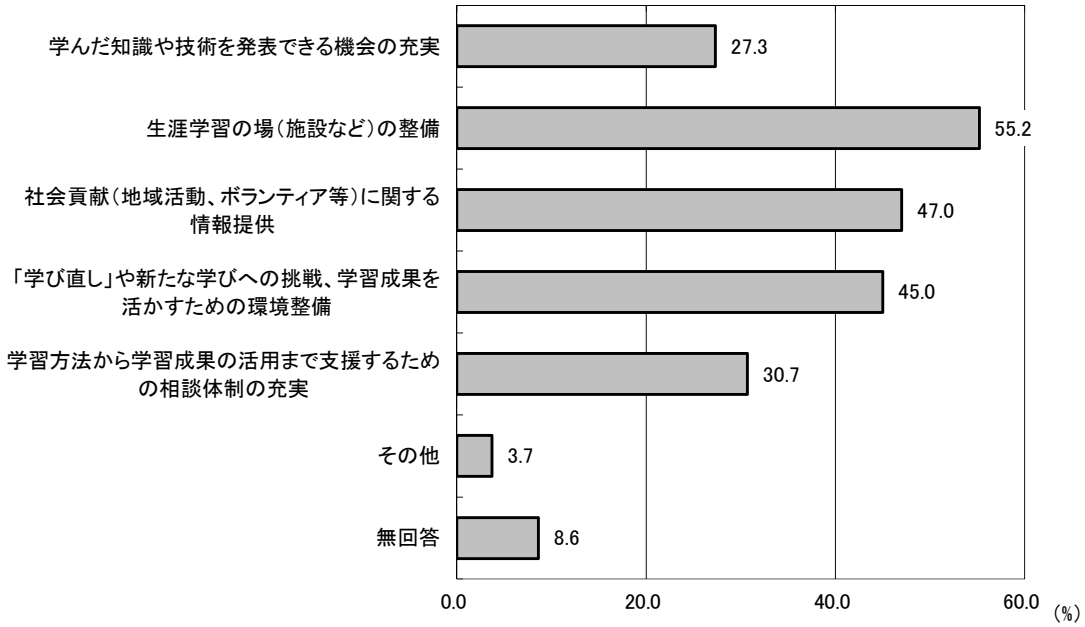
項目		回答数（人）	割合（%）
1	学んだ知識や技術を発表できる機会の充実	328	27.3
2	生涯学習の場（施設など）の整備	663	55.2
3	社会貢献（地域活動、ボランティア等）に関する情報提供	565	47.0
4	「学び直し」や新たな学びへの挑戦、学習成果を活かすための環境整備	540	45.0
5	学習方法から学習成果の活用まで支援するための相談体制の充実	369	30.7
6	その他	45	3.7
	無回答	103	8.6

◇　生涯学習で学んだ知識や技術等を、地域や社会の課題解決に活かす方法として希望するのは、

1 位　「生涯学習の場（施設など）の整備」（55.2%）

2 位　「社会貢献（地域活動、ボランティア等）に関する情報提供」（47.0%）

3 位　「「学び直し」や新たな学びへの挑戦、学習成果を活かすための環境整備」（45.0%）



①　生涯学習で学んだ知識や技術等を、地域や社会の課題解決に活かす方法

		サンプル数	学んだ知識や技術を発表できる機会の充実	生涯学習の場（施設など）の整備	社会貢献（地域活動、ボランティア等）に関する情報提供	「学び直し」や新たな学びへの挑戦、学習成果を活かすための環境整備	学習方法から学習成果の活用まで支援するための相談体制の充実	その他	無回答
全体		1,201	27.3	55.2	47.0	45.0	30.7	3.7	8.6
性別	男性	459	29.0	56.4	45.3	42.5	28.8	5.2	6.8
	女性	722	26.2	55.4	48.9	47.6	32.4	2.8	8.4
年齢別	10・20歳代	78	29.5	**62.8**	**52.6**	47.4	30.8	1.3	0.0
	30歳代	125	27.2	58.4	46.4	**52.0**	**36.0**	2.4	0.8
	40歳代	164	28.0	48.2	46.3	47.0	**40.2**	4.3	2.4
	50歳代	201	26.4	**65.2**	46.8	**52.7**	30.8	2.5	0.5
	60歳代	286	28.0	58.4	**54.2**	43.4	26.9	3.1	8.0
	70歳以上	331	26.3	48.6	41.7	39.6	27.8	6.0	19.6
居住年数別	1年未満	19	21.1	57.9	21.1	**63.2**	21.1	5.3	5.3
	2年未満	10	**40.0**	50.0	**70.0**	40.0	**40.0**	0.0	0.0
	3年未満	7	14.3	**85.7**	**57.1**	**71.4**	0.0	14.3	0.0
	5年未満	35	25.7	60.0	**57.1**	42.9	28.6	0.0	2.9
	10年未満	48	18.8	**79.2**	50.0	37.5	33.3	4.2	2.1
	20年未満	117	28.2	49.6	49.6	**50.4**	33.3	3.4	4.3
	30年未満	145	24.8	54.5	47.6	**50.3**	34.5	3.4	6.9
	30年以上	805	28.2	55.0	46.7	44.0	30.3	4.0	9.4
職業別	自営業	71	26.8	43.7	39.4	45.1	32.4	5.6	12.7
	自由業	10	30.0	60.0	**80.0**	40.0	20.0	0.0	0.0
	会社員	298	29.5	**60.7**	49.3	**51.3**	32.2	2.7	1.0
	公務員・教員	51	23.5	54.9	49.0	**52.9**	21.6	5.9	0.0
	農・林・漁業	6	16.7	**66.7**	16.7	**50.0**	0.0	0.0	16.7
	主婦・主夫（パートなど）	178	26.4	59.6	44.9	48.3	**36.0**	3.9	6.7
	主婦・主夫（専業）	212	27.8	54.2	46.2	42.9	31.6	3.3	8.5
	学生	23	26.1	52.2	**60.9**	47.8	30.4	0.0	0.0
	無職	273	26.4	53.1	45.8	37.4	27.5	4.4	16.8
	その他	63	25.4	52.4	**57.1**	49.2	34.9	6.3	6.3
居住区別	門司区	117	30.8	53.0	41.9	48.7	33.3	4.3	11.1
	小倉北区	198	**33.8**	50.5	51.0	39.4	29.3	5.6	8.6
	小倉南区	266	27.4	56.8	50.0	47.7	33.1	2.6	7.5
	若松区	111	25.2	55.9	44.1	41.4	27.0	5.4	12.6
	八幡東区	101	26.7	**60.4**	39.6	47.5	25.7	4.0	8.9
	八幡西区	325	23.1	57.5	44.3	45.2	32.3	3.4	7.4
	戸畑区	83	26.5	48.2	**59.0**	44.6	27.7	1.2	7.2

（注）**太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの（「その他」、「無回答」は除く）

生涯学習で学んだ知識や技術等を、地域や社会の課題解決に活かす方法

【全体的傾向】

生涯学習で学んだ知識や技術等を、地域や社会の課題解決に活かす方法として望まれるのは、「生涯学習の場（施設など）の整備」（55.2%）が最も高く、次いで「社会貢献（地域活動、ボランティア等）に関する情報提供」（47.0%）、「「学び直し」や新たな学びへの挑戦、学習成果を活かすための環境整備」（45.0%）と続いている。

【属性別にみた傾向】

- 年齢別にみると、「生涯学習の場（施設など）の整備」は50歳代（65.2%）及び10・20歳代（62.8%）、「社会貢献（地域活動、ボランティア等）に関する情報提供」は60歳代（54.2%）及び10・20歳代（52.6%）で特に高くなっている。
- 職業別にみると、「生涯学習の場（施設など）の整備」は会社員（60.7%）、「社会貢献（地域活動、ボランティア等）に関する情報提供」は自由業（80.0%）、学生（60.9%）及びその他（57.1%）で特に高くなっている。
- 居住区別にみると、「生涯学習の場（施設など）の整備」は八幡東区（60.4%）、「社会貢献（地域活動、ボランティア等）に関する情報提供」は戸畑区（59.0%）で特に高くなっている。

【自由記入欄の回答状況】

自由記入欄には以下のような意見や感想があった。

- 活かされる知識であればいいが、無駄な知識のために税金を使ってほしくない
- 学んだことが社会で活かせて、経済的報酬があること。また、新しい企画に参画でき、より良い社会づくりに貢献できること
- 子供が学校では学べない事を学ぶことができる
- 孤独になりたくない人が集まれる場所であれば、それ以上は望まない
- 学んだことを活かすよう、行政が求め過ぎている。これ以上のボランティアは難しい

② 学習機会を提供する機関が相互連携を進める有効な方法

問９　現在、様々な学習機会の要望に応えるため、行政や大学、ＮＰＯ、企業、カルチャーセンターなどの多くの機関によって学習機会が提供されています。

今後さらに、市民の学習機会を充実するには、これらの機関が相互に連携することが有効ですが、その連携を進めるために、あなたはどのような仕組みがあればよいと思いますか。３つまで選んでください。

Ｎ：1,201 人

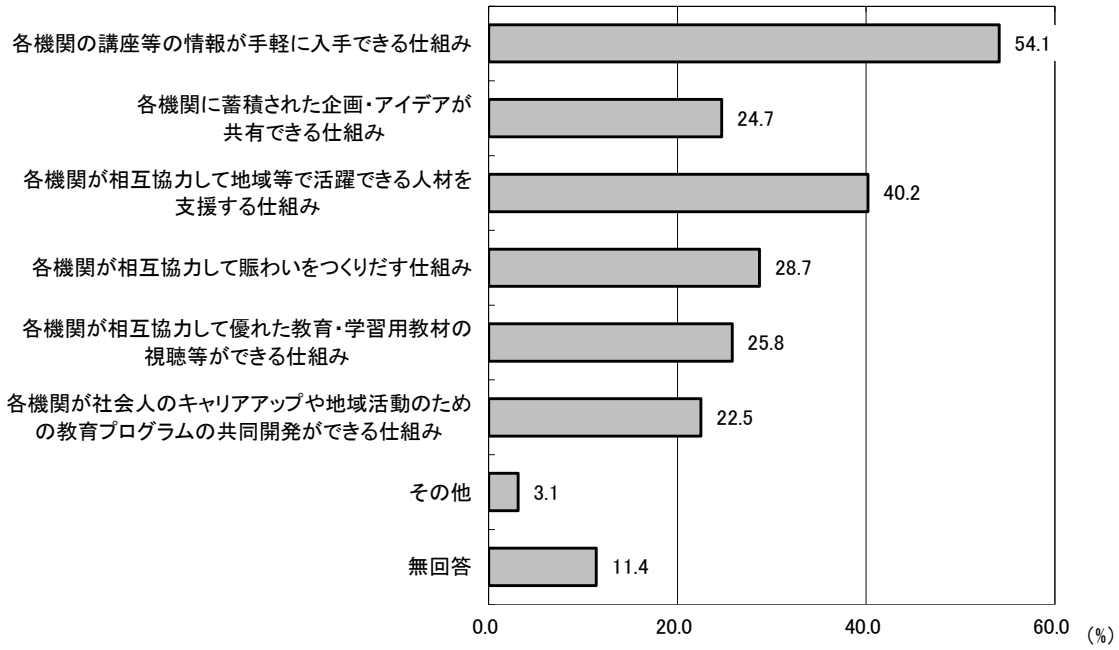
項目		回答数（人）	割合（%）
1	各機関の講座等の情報が手軽に入手できる仕組み	650	54.1
2	各機関に蓄積された企画・アイデアが共有できる仕組み	297	24.7
3	各機関が相互協力して地域等で活躍できる人材を支援する仕組み	483	40.2
4	各機関が相互協力して賑わいをつくりだす仕組み	345	28.7
5	各機関が相互協力して優れた教育・学習用教材の視聴等ができる仕組み	310	25.8
6	各機関が社会人のキャリアアップや地域活動のための教育プログラムの共同開発ができる仕組み	270	22.5
7	その他	37	3.1
	無回答	137	11.4

◇　学習機会を提供する機関が相互連携を進める有効な方法は、

1 位　「各機関の講座等の情報が手軽に入手できる仕組み」(54.1%)

2 位　「各機関が相互協力して地域等で活躍できる人材を支援する仕組み」　(40.2%)

3 位　「各機関が相互協力して賑わいをつくりだす仕組み」(28.7%)


各機関の講座等の情報が手軽に入手できる仕組み
54.1
各機関に蓄積された企画・アイデアが共有できる仕組み
24.7
各機関が相互協力して地域等で活躍できる人材を支援する仕組み
40.2
各機関が相互協力して賑わいをつくりだす仕組み
28.7
各機関が相互協力して優れた教育・学習用教材の視聴等ができる仕組み
25.8
各機関が社会人のキャリアアップや地域活動のための教育プログラムの共同開発ができる仕組み
22.5
その他
3.1
無回答
11.4
0.0
20.0
40.0
60.0
(%)

②　学習機会を提供する機関が相互連携を進める有効な方法

		サンプル数	各機関の講座等の情報が手軽に入手できる仕組み	各機関に蓄積された企画・アイデアが共有できる仕組み	各機関が相互協力して地域等で活躍できる人材を支援する仕組み	各機関が相互協力して賑わいをつくりだす仕組み	各機関が相互協力して優れた教育・学習用教材の視聴等ができる仕組み	各機関が社会人のキャリアアップや地域活動のための教育プログラムの共同開発ができる仕組み	その他	無回答
全体		1,201	54.1	24.7	40.2	28.7	25.8	22.5	3.1	11.4
性別	男性	459	50.3	24.2	41.2	31.4	27.5	21.6	5.4	8.5
	女性	722	57.2	25.2	40.0	27.6	25.3	23.3	1.7	12.0
年齢別	10・20歳代	78	51.3	21.8	42.3	30.8	**35.9**	**41.0**	2.6	1.3
	30歳代	125	**59.2**	25.6	40.8	32.0	26.4	24.0	4.8	1.6
	40歳代	164	53.0	18.9	41.5	23.2	28.7	**34.1**	4.3	3.0
	50歳代	201	**68.2**	27.4	43.8	28.9	23.4	25.4	1.5	1.5
	60歳代	286	54.2	28.7	45.1	31.5	25.9	16.8	2.8	11.2
	70歳以上	331	45.9	23.3	33.2	28.1	24.2	15.1	3.3	26.0
居住年数別	1年未満	19	52.6	10.5	36.8	31.6	**42.1**	15.8	10.5	5.3
	2年未満	10	50.0	20.0	40.0	**40.0**	30.0	20.0	0.0	0.0
	3年未満	7	28.6	**42.9**	**71.4**	**57.1**	14.3	**42.9**	0.0	0.0
	5年未満	35	48.6	25.7	25.7	22.9	**40.0**	**31.4**	0.0	5.7
	10年未満	48	45.8	27.1	33.3	31.3	**37.5**	**43.8**	4.2	8.3
	20年未満	117	56.4	20.5	**47.0**	20.5	29.1	23.9	4.3	8.5
	30年未満	145	**62.1**	28.3	33.1	27.6	28.3	26.9	2.1	6.9
	30年以上	805	53.9	24.8	41.6	30.1	23.6	20.0	3.1	12.7
職業別	自営業	71	43.7	19.7	42.3	**39.4**	9.9	21.1	4.2	16.9
	自由業	10	**60.0**	20.0	40.0	**50.0**	**40.0**	**40.0**	0.0	0.0
	会社員	298	55.0	27.2	41.3	30.9	29.9	**28.9**	2.7	3.0
	公務員・教員	51	51.0	27.5	45.1	23.5	21.6	25.5	5.9	0.0
	農・林・漁業	6	16.7	16.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3
	主婦・主夫（パートなど）	178	**64.0**	27.5	43.8	24.2	24.7	22.5	3.4	7.3
	主婦・主夫（専業）	212	**59.9**	25.9	37.7	26.9	20.8	15.1	0.9	13.7
	学生	23	43.5	17.4	**47.8**	**39.1**	**39.1**	**52.2**	4.3	4.3
	無職	273	48.0	21.2	35.5	30.4	30.4	17.9	4.0	20.9
	その他	63	57.1	25.4	**49.2**	19.0	28.6	27.0	4.8	7.9
居住区別	門司区	117	56.4	24.8	38.5	32.5	24.8	17.9	3.4	10.3
	小倉北区	198	55.6	22.7	35.9	31.3	24.7	25.3	4.0	13.1
	小倉南区	266	54.1	28.6	41.7	25.2	27.8	21.8	3.8	10.5
	若松区	111	54.1	23.4	38.7	30.6	26.1	17.1	2.7	13.5
	八幡東区	101	52.5	26.7	38.6	26.7	25.7	18.8	2.0	14.9
	八幡西区	325	52.3	21.8	39.4	28.6	24.9	26.8	2.8	10.5
	戸畑区	83	56.6	27.7	**55.4**	28.9	26.5	19.3	1.2	8.4

（注）**太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの（「その他」、「無回答」は除く）

学習機会を提供する機関が相互連携を進める有効な方法

【 全 体 的 傾 向 】

行政や大学、ＮＰＯ、企業、カルチャーセンターなどの学習機会を提供する機関が、相互連携を進めるために望まれる仕組みは、「各機関の講座等の情報が手軽に入手できる仕組み」(54.1%)が最も高く、次いで「各機関が相互協力して地域等で活躍できる人材を支援する仕組み」(40.2%)、「各機関が相互協力して賑わいをつくりだす仕組み」(28.7%) と続いている。

【 属 性 別 に み た 傾 向 】

- 年齢別にみると、「各機関の講座等の情報が手軽に入手できる仕組み」は 50 歳代（68.2%）及び 30 歳代（59.2%）で特に高くなっている。また、「各機関が社会人のキャリアアップや地域活動のための教育プログラムの共同開発ができる仕組み」は 10・20 歳代（41.0%）及び 40 歳代（34.1%）で比較的高くなっている。
- 居住年数別にみると、「各機関の講座等の情報が手軽に入手できる仕組み」は 30 年未満（62.1%）で特に高くなっている。
- 職業別にみると、「各機関の講座等の情報が手軽に入手できる仕組み」は主婦・主夫（パートなど）(64.0%)、自由業（60.0%）及び主婦・主夫（専業）(59.9%) で特に高くなっている。
- 居住区別にみると、「各機関が相互協力して地域等で活躍できる人材を支援する仕組み」は戸畑区（55.4%）で特に高くなっている。

【 自 由 記 入 欄 の 回 答 状 況 】

自由記入欄には以下のような意見や感想があった。

- 街の活性化を促す産学連携の拡大
- 学んだことが活用できる場の提供
- 社会人でも参加できる時間での開校

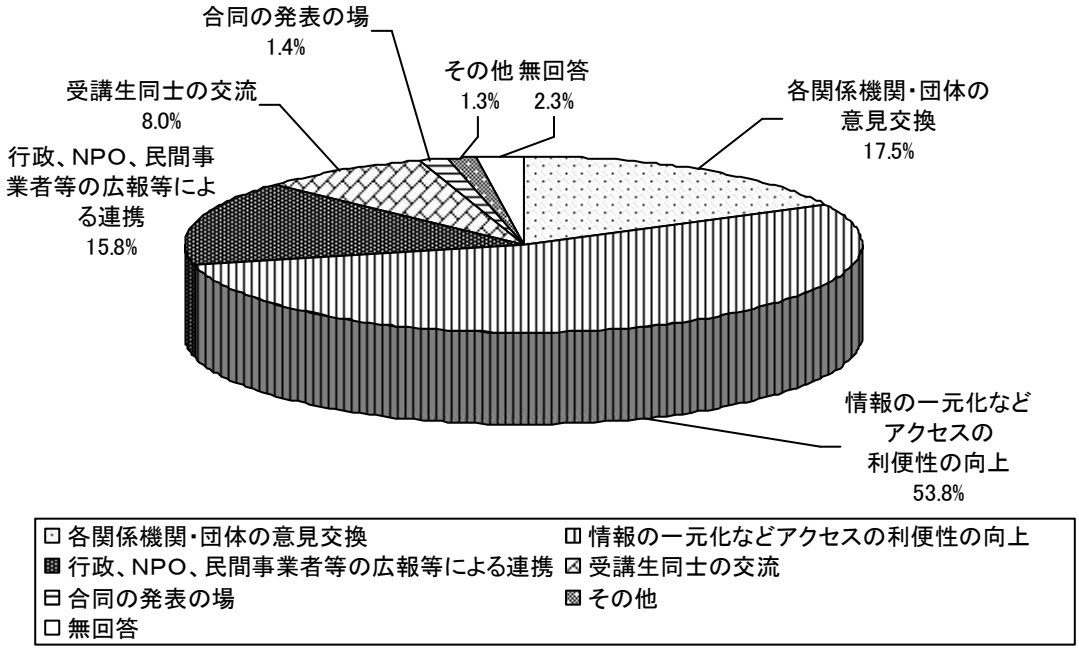
③　各機関の相互連携を進める仕組みづくりに必要なこと

副問９－１　　問９で「１」「２」「３」のいずれかを選んだ方におたずねします。あなたは、この仕組みづくりにあたって、今後どのようなことが必要と思われますか。次の中から最も当てはまるものを１つだけ選んでください。

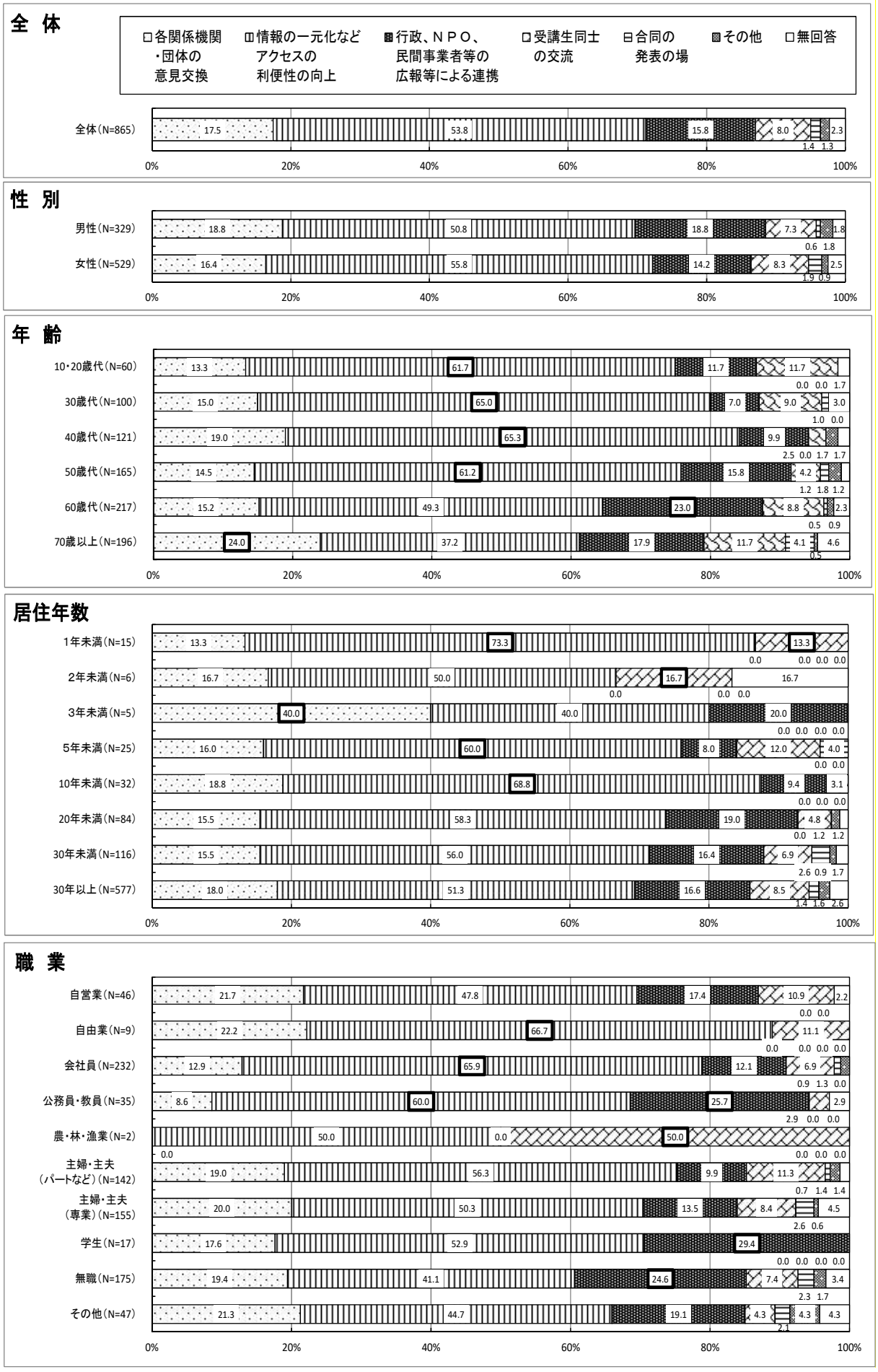
Ｎ：865 人

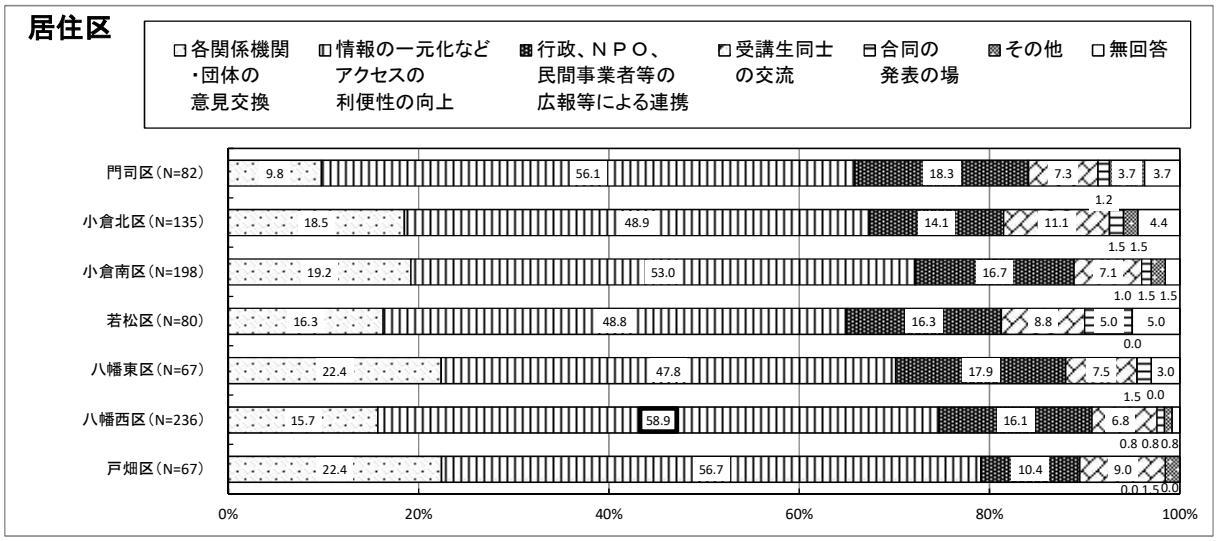
項目	回答数（人）	割合（%）
１　各関係機関・団体の意見交換	151	17.5
２　情報の一元化などアクセスの利便性の向上	465	53.8
３　行政、ＮＰＯ、民間事業者等の広報等による連携	137	15.8
４　受講生同士の交流	69	8.0
５　合同の発表の場	12	1.4
６　その他	11	1.3
無回答	20	2.3

◇　各機関の相互連携を進める仕組みづくりに必要なことは、
　１位　「情報の一元化などアクセスの利便性の向上」(53.8%)
　２位　「各関係機関・団体の意見交換」(17.5%)
　３位　「行政、ＮＰＯ、民間事業者等の広報等による連携」(15.8%)



③　各機関の相互連携を進める仕組みづくりに必要なこと





（注） **太枠** 全体よりも５ポイント以上高いもの（「その他」「無回答」は除く）

各機関の相互連携を進める仕組みづくりに必要なこと

【全体的傾向】

各機関の相互連携を進める仕組みづくりに必要なことは、「情報の一元化などアクセスの利便性の向上」（53.8%）が最も高く、次いで「各関係機関・団体の意見交換」（17.5%）、「行政、ＮＰＯ、民間事業者等の広報等による連携」（15.8%）と続いている。

【属性別にみた傾向】

- 年齢別にみると、「情報の一元化などアクセスの利便性の向上」は 40 歳代（65.3%）、30 歳代（65.0%）、10・20 歳代（61.7%）及び 50 歳代（61.2%）で６割以上と、50 歳代以下の層で比較的高くなっている。
- 居住年数別にみると、「情報の一元化などアクセスの利便性の向上」は１年未満（73.3%）、10 年未満（68.8%）及び５年未満（60.0%）で６割以上と、比較的居住年数が短い層で特に高くなっている。
- 職業別にみると、「情報の一元化などアクセスの利便性の向上」は会社員（65.9%）及び公務員・教員（60.0%）で特に高くなっている。
- 居住区別にみると、「情報の一元化などアクセスの利便性の向上」は八幡西区（58.9%）で特に高くなっている。

【自由記入欄の回答状況】

自由記入欄には以下のような意見や感想があった。

- 市民に様々な学習の場を知ってもらうこと
- 各機関や人材への報酬アップ
- 居場所と役割の受け入れ体制の整備とマッチング
- 個々人の活動ではなく、つながりを作ること
- ホームページやアプリ等と市政だよりの両方の充実

（６）シビックプライドについて

①　自分が住むまたは活動する身近な地域への愛着度

問 10　　あなたは、自分が住むまたは活動する身近な地域に愛着を感じていますか。次の中から最も当てはまるものを１つだけ選んでください。

N：1,201 人

項目	回答数（人）	割合（%）
1　とても愛着を感じている	270	22.5
2　まあ愛着を感じている	713	59.4
3　あまり愛着を感じていない	143	11.9
4　愛着を感じていない	37	3.1
無回答	38	3.2

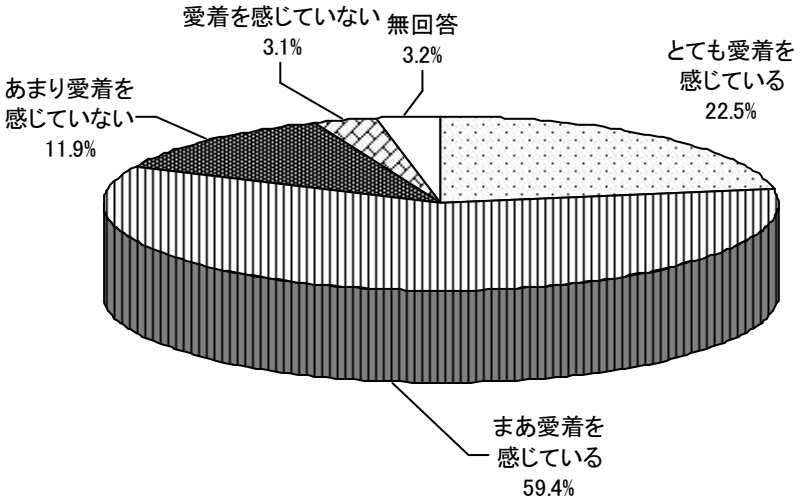
◇　自分が住むまたは活動する身近な地域への愛着を感じているかは、

・肯定層　81.9%

（「とても愛着を感じている」22.5%＋「まあ愛着を感じている」59.4%）

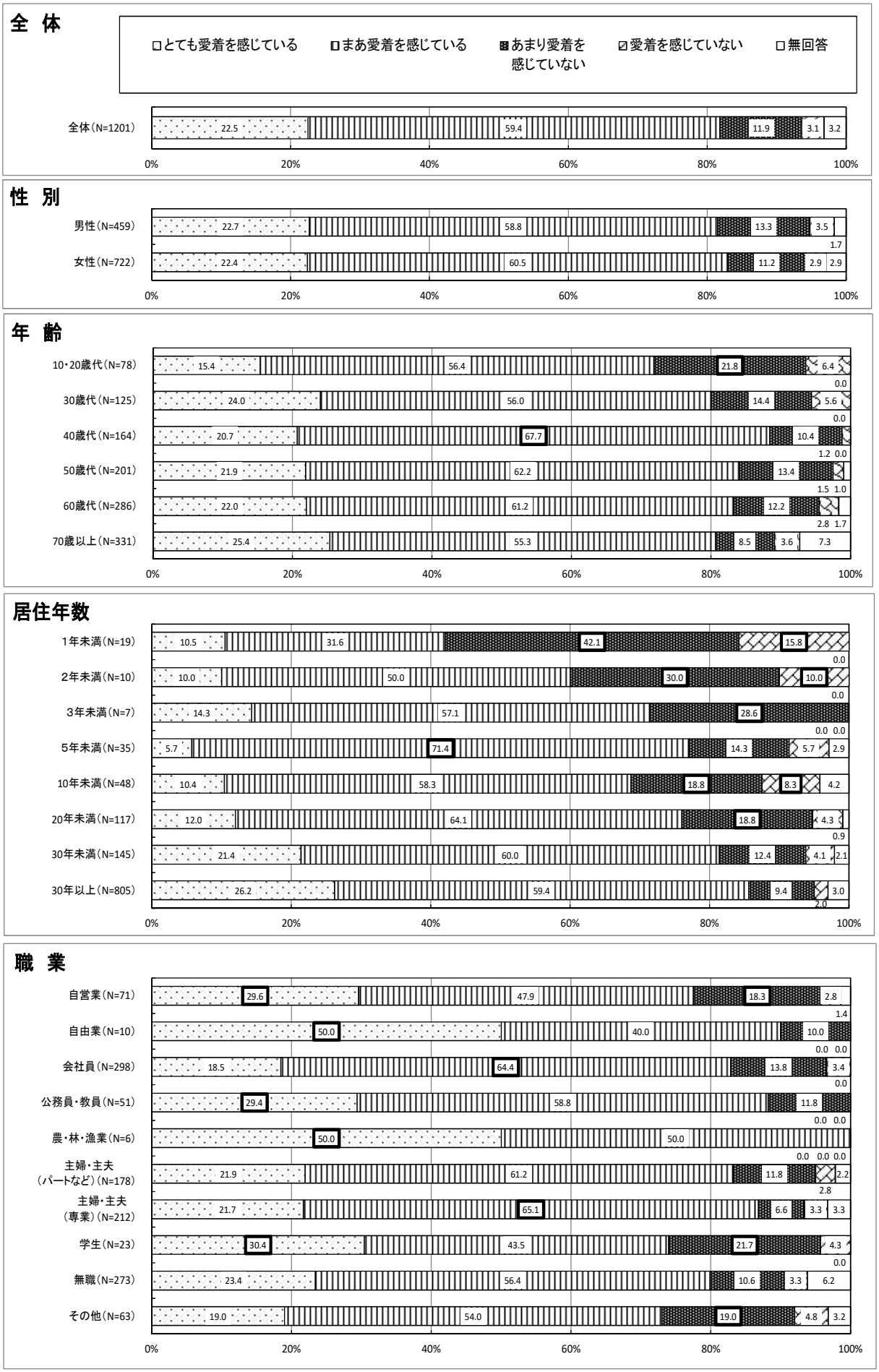
・否定層　15.0%

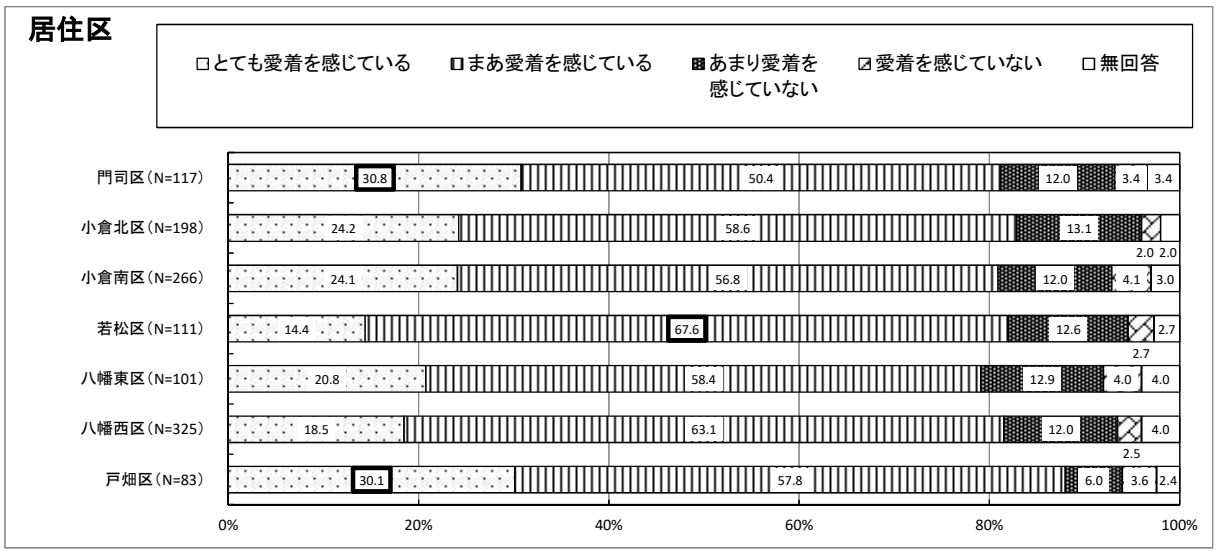
（「あまり愛着を感じていない」11.9%＋「愛着を感じていない」3.1%



□とても愛着を感じている　▥まあ愛着を感じている　▦あまり愛着を感じていない
▨愛着を感じていない　□無回答

①　自分が住むまたは活動する身近な地域への愛着度





（注） **太枠** 全体よりも 5 ポイント以上高いもの（「その他」「無回答」は除く）

自分が住むまたは活動する身近な地域への愛着度

【 全 体 的 傾 向 】

「とても愛着を感じている」と「まあ愛着を感じている」をあわせた『肯定層』は、81.9%となり、「あまり愛着を感じていない」と「愛着を感じていない」をあわせた『否定層』(15.0%)を大きく上回っている。

【 属 性 別 に み た 傾 向 】

- 年齢別にみると、『肯定層』は、40 歳代（88.4%）で最も高く、10・20 歳代（71.8%）で最も低くなっており、その差は 16.6 ポイントとなっている。一方、『否定層』は 10・20 歳代（28.2%）及び 30 歳代（20.0%）で特に高く、若い世代で愛着を感じていない人が比較的多い傾向が見られる。
- 居住年数別にみると、『肯定層』は 30 年以上（85.6%）及び 30 年未満（81.4%）で特に高く、居住年数が長い層で愛着を感じている人が多い傾向が見られる。
- 職業別にみると、『肯定層』は、自由業（90.0%）、公務員・教員（88.2%）及び主婦・主夫（専業）（86.8%）と特に高くなっている。一方、「否定層」は学生（26.0%）及びその他（23.8%）で比較的高い傾向が見られる。
- 居住区別にみると、『肯定層』は戸畑区（87.9%）で最も高く、八幡東区（79.2%）で最も低くなっており、その差は 8.7 ポイントとなっている。

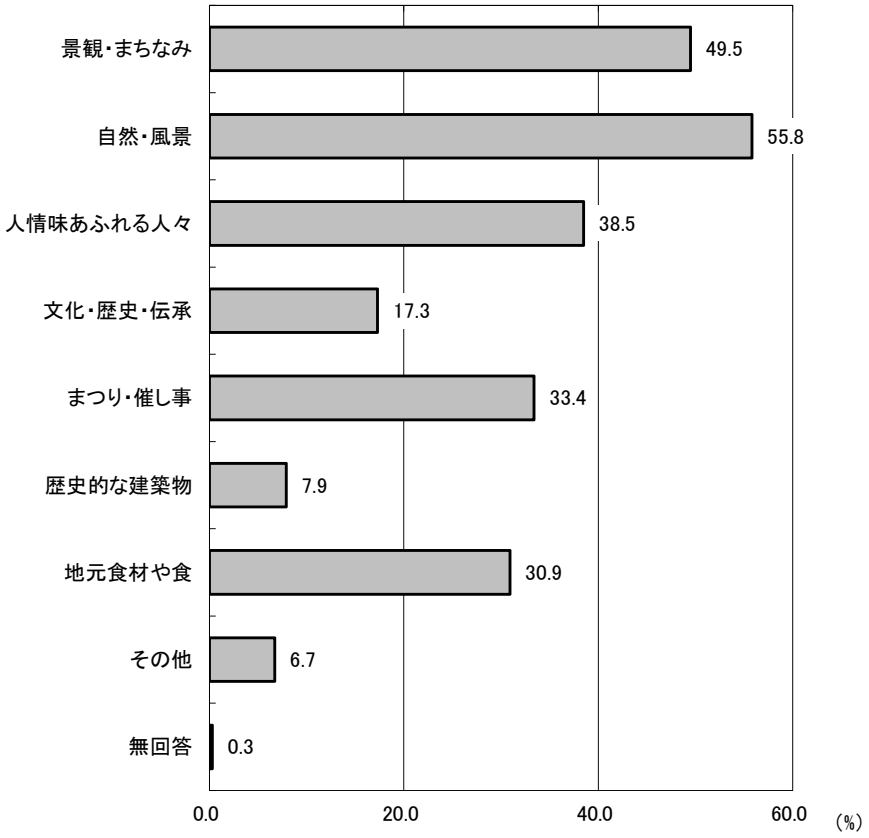
② 自分が住むまたは活動する身近な地域に愛着を感じる理由

問 10－１	問１０で「１」または「２」を選んだ方におたずねします。自分が住むまたは活動する身近な地域のどのようなところにあなたは愛着を感じますか。３つまで選んでください。

N：983 人

項目	回答数（人）	割合（%）
１　景観・まちなみ	487	49.5
２　自然・風景	549	55.8
３　人情味あふれる人々	378	38.5
４　文化・歴史・伝承	170	17.3
５　まつり・催し事	328	33.4
６　歴史的な建築物	78	7.9
７　地元食材や食	304	30.9
８　その他	66	6.7
無回答	3	0.3

◇　自分が住むまたは活動する身近な地域に愛着を感じる理由は、
1 位　「自然・風景」(55.8%)
2 位　「景観・まちなみ」(49.5%)
3 位　「人情味あふれる人々」(38.5%)


景観・まちなみ
49.5
自然・風景
55.8
人情味あふれる人々
38.5
文化・歴史・伝承
17.3
まつり・催し事
33.4
歴史的な建築物
7.9
地元食材や食
30.9
その他
6.7
無回答
0.3
0.0
20.0
40.0
60.0
(%)

②　自分が住むまたは活動する身近な地域に愛着を感じる理由

		サンプル数	景観・まちなみ	自然・風景	人情味あふれる人々	文化・歴史・伝承	まつり・催し事	歴史的な建築物	地元食材や食	その他	無回答
全体		983	49.5	55.8	38.5	17.3	33.4	7.9	30.9	6.7	0.3
性別	男性	374	52.4	57.8	35.0	21.4	33.4	7.5	25.4	8.3	0.0
	女性	599	48.1	54.8	41.1	14.4	33.6	8.3	34.2	5.7	0.3
年齢別	10・20歳代	56	**66.1**	44.6	23.2	19.6	33.9	8.9	25.0	3.6	0.0
	30歳代	100	54.0	49.0	28.0	11.0	38.0	5.0	35.0	10.0	0.0
	40歳代	145	46.9	46.9	38.6	13.8	35.2	6.2	30.3	8.3	0.0
	50歳代	169	**55.0**	59.2	31.4	18.9	27.8	8.3	32.5	7.1	0.0
	60歳代	238	47.1	**60.9**	42.4	18.5	30.3	7.6	32.8	5.9	0.0
	70歳以上	267	45.3	59.6	**47.2**	18.4	37.5	10.1	28.1	5.6	0.7
居住年数別	1年未満	8	**62.5**	50.0	37.5	12.5	25.0	**25.0**	**37.5**	0.0	0.0
	2年未満	6	33.3	**66.7**	**50.0**	0.0	16.7	**16.7**	**50.0**	0.0	0.0
	3年未満	5	**80.0**	**80.0**	**60.0**	0.0	20.0	0.0	**40.0**	20.0	0.0
	5年未満	27	40.7	51.9	37.0	14.8	29.6	3.7	33.3	0.0	0.0
	10年未満	33	**63.6**	42.4	42.4	12.1	21.2	6.1	27.3	12.1	0.0
	20年未満	89	50.6	52.8	38.2	20.2	32.6	3.4	19.1	15.7	0.0
	30年未満	118	53.4	52.5	31.4	**22.9**	32.2	5.1	31.4	6.8	0.0
	30年以上	689	48.5	57.6	39.6	16.4	35.0	9.1	32.1	5.5	0.3
職業別	自営業	55	45.5	56.4	**52.7**	12.7	**40.0**	7.3	34.5	7.3	0.0
	自由業	9	**55.6**	55.6	22.2	11.1	11.1	0.0	**55.6**	33.3	0.0
	会社員	247	**57.1**	52.2	27.1	16.2	32.0	7.7	**36.8**	7.7	0.0
	公務員・教員	45	**57.8**	**62.2**	40.0	20.0	22.2	4.4	**37.8**	6.7	0.0
	農・林・漁業	6	33.3	**83.3**	**66.7**	16.7	33.3	0.0	33.3	16.7	0.0
	主婦・主夫（パートなど）	148	45.3	52.0	39.9	15.5	33.8	6.1	29.1	8.1	0.0
	主婦・主夫（専業）	184	51.1	**60.9**	**45.7**	12.0	32.1	10.3	26.1	3.3	0.5
	学生	17	**70.6**	41.2	17.6	**41.2**	29.4	**17.6**	11.8	0.0	0.0
	無職	218	44.5	56.9	41.7	21.1	35.8	8.7	28.0	7.3	0.5
	その他	46	34.8	**60.9**	**43.5**	**23.9**	**45.7**	6.5	28.3	2.2	0.0
居住区別	門司区	95	**58.9**	**65.3**	36.8	**25.3**	16.8	**16.8**	35.8	3.2	0.0
	小倉北区	164	52.4	50.6	32.9	14.6	36.6	10.4	**40.2**	7.9	0.0
	小倉南区	215	42.8	**64.2**	42.8	18.1	29.8	2.3	34.9	7.4	0.0
	若松区	91	52.7	59.3	36.3	12.1	28.6	6.6	33.0	6.6	1.1
	八幡東区	80	48.8	**61.3**	**50.0**	12.5	26.3	6.3	18.8	7.5	0.0
	八幡西区	265	51.7	53.2	37.0	17.7	34.7	6.8	24.5	6.4	0.8
	戸畑区	73	39.7	30.1	35.6	20.5	**67.1**	**15.1**	26.0	6.8	0.0

（注）**太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの（「その他」、「無回答」は除く）

自分が住むまたは活動する身近な地域に愛着を感じる理由

【 全 体 的 傾 向 】

自分が住むまたは活動する身近な地域に愛着を感じている『肯定層』が、愛着を感じる理由は、「自然・風景」（55.8%）が最も高く、次いで「景観・まちなみ」（49.5%）、「人情味あふれる人々」（38.5%）と続いている。

【 属 性 別 に み た 傾 向 】

- 年齢別にみると、「自然・風景」は、60 歳代（60.9%）で特に高く、「景観・まちなみ」は、10・20 歳代（66.1%）、50 歳代（55.0%）及び 30 歳代（54.0%）で特に高くなっている。
- 職業別にみると、「自然・風景」は公務員・教員（62.2%）、主婦・主夫（専業）（60.9%）及びその他（60.9%）で特に高くなっている。また、「景観・まちなみ」は学生（70.6%）、公務員・教員（57.8%）及び会社員（57.1%）で特に高くなっている。
- 居住区別にみると、「自然・風景」は門司区（65.3%）、小倉南区（64.2%）及び八幡東区（61.3%）で特に高く、「景観・まちなみ」は門司区（58.9%）で特に高くなっている。また、「まつり・催し事」は戸畑区（67.1%）で他の地区に比べて突出して高くなっている。

【 自 由 記 入 欄 の 回 答 状 況 】

自由記入欄には以下のような意見や感想があった。

- 近所の人間関係
- 教育施設が充実し、病院が多いこと。また、若い街で活気があること
- 海も山もあり、少し都会的な所や少し田舎的な所があること
- 長年住んで生活してきて、自分達で造ってきた地域のため
- 渋滞がなく車で移動できたり、北九州空港から東京へすぐに行けたりと、交通の便が良いこと

③　シビックプライド醸成のために必要なこと

問 11　　あなたは、シビックプライド醸成のために、今後何が必要だと思われますか。 ３つまで選んでください。

N：1,201 人

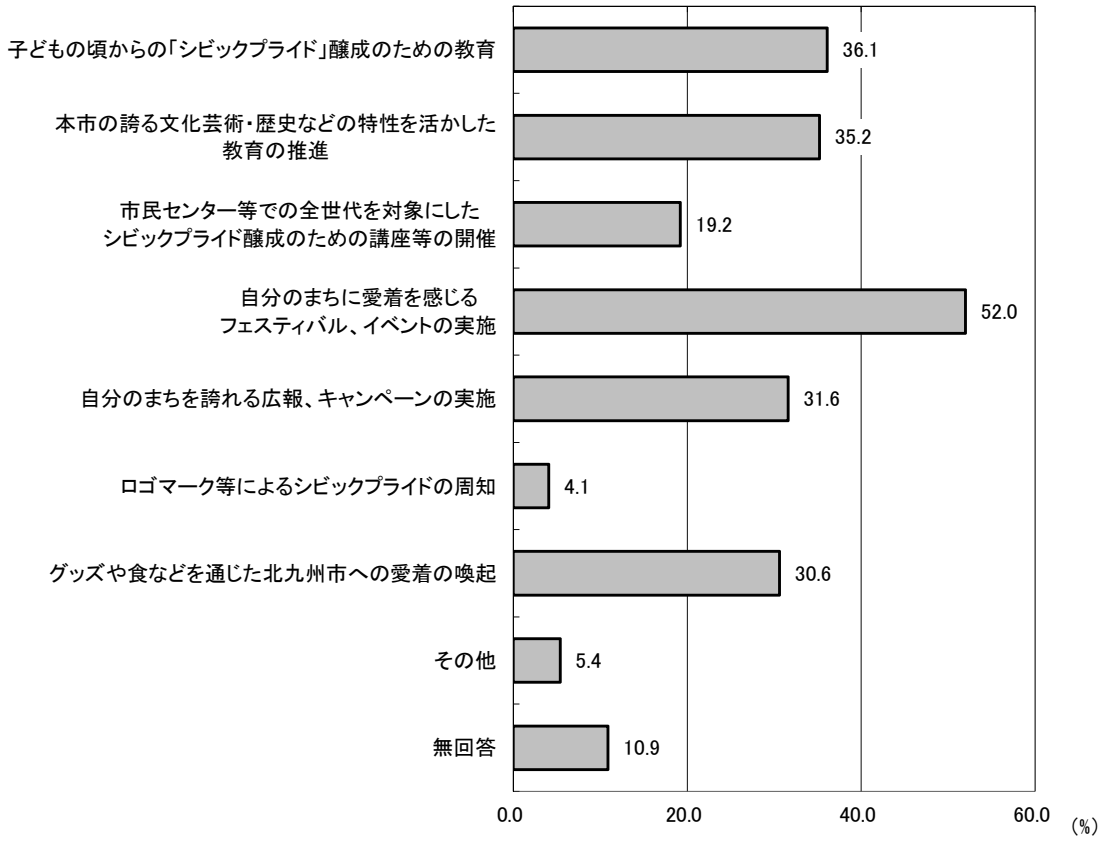
項目		回答数（人）	割合（%）
1	子どもの頃からの「シビックプライド」醸成のための教育	434	36.1
2	本市の誇る文化芸術・歴史などの特性を活かした教育の推進	423	35.2
3	市民センター等での全世代を対象にしたシビックプライド醸成のための講座等の開催	230	19.2
4	自分のまちに愛着を感じるフェスティバル、イベントの実施	624	52.0
5	自分のまちを誇れる広報、キャンペーンの実施	380	31.6
6	ロゴマーク等によるシビックプライドの周知	49	4.1
7	グッズや食などを通じた北九州市への愛着の喚起	367	30.6
8	その他	65	5.4
	無回答	131	10.9

◇　シビックプライド醸成のために必要なことは、

1 位　「自分のまちに愛着を感じるフェスティバル、イベントの実施」(52.0%)

2 位　「子どもの頃からの「シビックプライド」醸成のための教育」(36.1%)

3 位　「本市の誇る文化芸術・歴史などの特性を活かした教育の推進」(35.2%)


子どもの頃からの「シビックプライド」醸成のための教育
36.1
本市の誇る文化芸術・歴史などの特性を活かした教育の推進
35.2
市民センター等での全世代を対象にしたシビックプライド醸成のための講座等の開催
19.2
自分のまちに愛着を感じるフェスティバル、イベントの実施
52.0
自分のまちを誇れる広報、キャンペーンの実施
31.6
ロゴマーク等によるシビックプライドの周知
4.1
グッズや食などを通じた北九州市への愛着の喚起
30.6
その他
5.4
無回答
10.9
0.0
20.0
40.0
60.0
(%)

③　シビックプライド醸成のために必要なこと

		サンプル数	子どもの頃からの「シビックプライド」醸成のための教育	本市の誇る文化芸術・歴史などの特性を活かした教育の推進	市民センター等での全世代を対象にしたシビックプライド醸成のための講座等の開催	自分のまちに愛着を感じるフェスティバル、イベントの実施	自分のまちを誇れる広報、キャンペーンの実施	ロゴマーク等によるシビックプライドの周知	グッズや食などを通じた北九州市への愛着の喚起	その他	無回答
全体		1,201	36.1	35.2	19.2	52.0	31.6	4.1	30.6	5.4	10.9
性別	男性	459	35.9	34.4	20.0	52.7	34.6	5.4	31.6	7.4	7.0
	女性	722	37.3	36.7	19.1	52.9	30.6	3.3	30.7	4.2	11.1
年齢別	10・20歳代	78	20.5	37.2	7.7	**73.1**	**37.2**	**10.3**	**39.7**	5.1	3.8
	30歳代	125	29.6	30.4	9.6	**64.8**	36.0	4.0	**36.8**	7.2	6.4
	40歳代	164	34.8	32.3	10.4	56.7	30.5	6.1	30.5	8.5	3.7
	50歳代	201	**43.3**	**40.3**	15.4	52.7	33.8	3.0	29.9	6.5	4.5
	60歳代	286	**45.8**	37.8	22.4	53.1	32.9	3.1	29.0	3.5	8.7
	70歳以上	331	32.0	34.4	**30.2**	40.8	28.4	3.3	29.3	4.2	19.6
居住年数別	1年未満	19	10.5	**42.1**	10.5	52.6	**47.4**	5.3	**57.9**	5.3	0.0
	2年未満	10	20.0	20.0	20.0	**60.0**	**50.0**	**20.0**	20.0	0.0	10.0
	3年未満	7	28.6	28.6	0.0	**85.7**	28.6	**28.6**	**71.4**	0.0	0.0
	5年未満	35	28.6	25.7	22.9	**68.6**	**37.1**	2.9	34.3	2.9	2.9
	10年未満	48	25.0	35.4	18.8	50.0	29.2	2.1	**39.6**	8.3	8.3
	20年未満	117	30.8	30.8	17.1	51.3	**36.8**	1.7	22.2	13.7	12.0
	30年未満	145	**42.8**	37.9	15.2	51.0	30.3	6.2	26.9	5.5	4.8
	30年以上	805	38.3	36.5	20.7	52.2	31.1	3.9	31.4	4.3	11.1
職業別	自営業	71	35.2	32.4	14.1	49.3	32.4	**9.9**	31.0	5.6	11.3
	自由業	10	**50.0**	40.0	20.0	**70.0**	**40.0**	0.0	**40.0**	0.0	0.0
	会社員	298	38.6	33.2	14.8	**57.7**	**36.6**	4.7	**37.9**	5.7	4.4
	公務員・教員	51	39.2	**43.1**	7.8	54.9	33.3	5.9	25.5	9.8	2.0
	農・林・漁業	6	16.7	16.7	0.0	50.0	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7
	主婦・主夫（パートなど）	178	37.1	36.5	16.9	**57.3**	29.8	2.2	27.0	5.6	6.2
	主婦・主夫（専業）	212	37.7	36.3	21.7	51.4	27.8	2.4	25.5	2.8	15.1
	学生	23	13.0	30.4	8.7	**78.3**	**39.1**	8.7	34.8	8.7	8.7
	無職	273	35.2	36.6	**28.9**	44.7	30.8	4.0	30.8	4.4	15.0
	その他	63	36.5	39.7	20.6	44.4	33.3	4.8	31.7	12.7	9.5
居住区別	門司区	117	39.3	**42.7**	14.5	**57.3**	**36.8**	2.6	34.2	7.7	7.7
	小倉北区	198	35.4	34.8	15.2	53.5	32.8	4.5	29.8	5.1	11.6
	小倉南区	266	**41.4**	36.5	20.7	52.3	33.1	4.9	29.3	4.5	9.0
	若松区	111	29.7	26.1	**25.2**	47.7	34.2	4.5	**36.0**	6.3	12.6
	八幡東区	101	28.7	38.6	22.8	46.5	31.7	2.0	**35.6**	6.9	7.9
	八幡西区	325	36.0	33.2	19.1	52.3	26.5	5.2	28.3	5.2	11.7
	戸畑区	83	34.9	37.3	18.1	50.6	33.7	0.0	26.5	3.6	18.1

（注）**太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの（「その他」、「無回答」は除く）

シビックプライド醸成のために必要なこと

【全体的傾向】

シビックプライド醸成のために必要なことは、「自分のまちに愛着を感じるフェスティバル、イベントの実施」（52.0%）が最も高く、次いで「子どもの頃からの「シビックプライド」醸成のための教育」（36.1%）、「本市の誇る文化芸術・歴史などの特性を活かした教育の推進」（35.2%）と続いている。

【属性別にみた傾向】

- 年齢別にみると、「自分のまちに愛着を感じるフェスティバル、イベントの実施」は10・20歳代（73.1%）及び30歳代（64.8%）で特に高く、若い世代で高い傾向が見られる。一方、「子どもの頃からの「シビックプライド」醸成のための教育」は60歳代（45.8%）及び50歳代（43.3%）で比較的高くなっている。
- 居住年数別にみると、「子どもの頃からの「シビックプライド」醸成のための教育」は30年未満（42.8%）及び30年以上（38.3%）で特に高く、居住年数の長い層で高くなっている。一方、「自分のまちに愛着を感じるフェスティバル、イベントの実施」は５年未満（68.6%）及び２年未満（60.0%）で特に高く、「グッズや食などを通じた北九州市への愛着の喚起」は１年未満（57.9%）で特に高くなっており、居住年数の短い層で高い傾向が見られる。
- 職業別にみると、「自分のまちに愛着を感じるフェスティバル、イベントの実施」は学生（78.3%）及び自由業（70.0%）で特に高くなっている。
- 居住区別にみると、「自分のまちに愛着を感じるフェスティバル、イベントの実施」は門司区（57.3%）で最も高く、八幡東区（46.5%）で最も低く、その差は10.8ポイントとなっている。「子どもの頃からの「シビックプライド」醸成のための教育」は小倉南区（41.4%）で最も高く、八幡東区（28.7%）で最も低く、その差は12.7ポイントとなっている。また、「本市の誇る文化芸術・歴史などの特性を活かした教育の推進」は門司区（42.7%）で最も高く、若松区（26.1%）で最も低く、その差は16.6ポイントとなっている。

【自由記入欄の回答状況】

自由記入欄には以下のような意見や感想があった。

- 街をもっときれいにし、オシャレで清潔感のある街づくりをする必要がある
- ご近所との交流があれば自然と愛着が生じてくる
- 誇りや愛着は一人一人が暮らしの中で感じとるものであり、小さい時からの安定した生活と学習の保証が大切である
- 観光地の整備が必要。いのちのたび博物館は子連れ向けに良いと思うが、門司港や平尾台はもう少し力を入れてほしい
- 現状、北九州は若者が少なく、高齢者が多くなっているが、若者を中心としたイベントや店舗などを増やさないと、更に若者がいなくなってしまう。また、「高齢者を元気に」と考えているのであれば、若者世界に高齢者を巻き込むようなポジティブな施策が必要だと思う

３　まとめ

本調査報告書の冒頭部分「調査の目的」で触れているが、本市では、「市民主体のまちづくり」を進めていくための基本ルールとなる「北九州市自治基本条例」を定め、平成 22 年 10 月に施行した。同条例において、市は、「市民主体のまちづくり」を実現するため、「情報共有」「市民参画」「コミュニティの活動」等を積極的に推進することとしている。

そこで、平成 29 年度の市民意識調査では「住民主体のまちづくりについて」をテーマとし、様々な地域課題を解決するため、住みよい地域社会をつくるための地域活動や自治会・町内会の活動について、地域における住民の交流及び自主的活動の拠点となる市民センターの利用状況について、また、市民一人ひとりが、自己の人格を磨き豊かな人生を送るための生涯学習及び自分が住むまたは働くまちに対してのシビックプライド等について、市民の意見を把握し、今後の施策検討の資料とするために本調査を実施した。

調査結果の具体的な内容、詳細についてはすでに指摘してきたとおりであるが、最後にここで調査結果の簡単な要約を行い本調査報告のまとめとする。

１．地域活動について

- 地域活動への参加経験について尋ねたところ、「ある」（54.0%）が「ない」（45.3%）を上回った。「ある」と回答した人が参加した地域活動は、「自治会・町内会の活動」（81.0%）が最も高く、次の「ＰＴＡでの活動」（31.7%）との差は 49.3 ポイントと大きく開いた。以下、「子ども会での活動」(26.5%)、「まちづくり協議会の活動」(18.2%)と続いた。
- 地域活動に参加している理由は、「地域の人と触れ合えるから」（58.6%）が最も高く、６割弱となった。次いで「活動に参加することが当然であるから」(37.8%)、「地域の必要な情報を得ることができるから」（33.7%）と続いた。
- 地域活動に参加したきっかけは、「自治会の回覧板やまちづくり協議会のチラシ等で活動を知って、興味を持ったから」（35.3%)が最も高く、４割弱となった。次いで「入居する集合住宅に自治会加入が規定されていて、活動に参加するようになっていたから」（29.7%)、「周囲の人に参加を勧められたから」（29.6%）と続いた。
- 地域活動を行う場として利用したことのある施設は、「市民センター」（61.0%）が最も高く、６割強となった。次いで「地域で所有する集会施設等（公民館、つどいの家等)」（39.0%)、「市民センター、年長者いこいの家以外の市有施設（生涯学習センター、地域交流センター等)」（19.1%）と続いた。
- 一方、地域活動に参加したことがない理由は、「地域活動する時間がない」（27.0%）が最も高く、３割弱となった。次いで「特に理由はない」(20.2%)、「地域の団体のことがよくわからない」（15.6%）となった。
- これからの地域活動を支える大切な団体について尋ねたところ、「自治会・町内会」（70.2%）が最も高く、次の「まちづくり協議会」（38.3%）との差は 31.9 ポイントとなった。以下、「社会福祉協議会」(31.2%)、「ボランティア団体」（25.0%）と続いた。

２．自治会・町内会について

- 自治会・町内会の活動内容を知っているかを尋ねたところ、「ある程度知っている」（45.1%）が最も高く、次いで「あまり知らない」(27.6%)、「全く知らない」(14.8%)と続いた。「よく知っている」と「ある程度知っている」をあわせた『知っている』は、54.8%と過半数を占めた。
- 自治会・町内会の活動内容を「よく知っている」または「ある程度知っている」と回答した人が知っている地域の自治会・町内会の活動は、「市政だよりの配布などの住民に必要な情報を提供する活動」(88.4%）が最も高く、９割弱となった。次いで「防犯灯の設置や安全パトロールなどの防犯活動」(79.2%)、「お祭りやレクリエーションなどの住民の交流を図る活動」(70.4%）と続いた。
- 自治会・町内会への加入状況を尋ねたところ、「加入している」(67.2%）が「加入していない」(26.1%）を大きく上回った。「加入していない」と回答した人が、加入していない理由としては、「加入しなくても日常生活に支障がない」(34.1%）が最も高く、３割強となった。次いで「加入を勧められたことがない」(33.1%)、「役員になりたくない」(29.0%）と続いた。

３．住民主体によるまちづくりについて

- 住民主体によるまちづくりの必要性について尋ねたところ、「ある程度必要と思う」（51.1%）が最も高く、５割強となった。次いで「非常に必要だと思う」(37.4%)、「どちらとも言えない」(4.7%）と続いた。「非常に必要だと思う」と「ある程度必要と思う」を合わせた『肯定層』(88.5%）は９割弱を占め、「あまり必要ではない」と「ほとんど必要ではない」を合わせた『否定層』(0.5%）を大きく上回った。
- 住民主体によるまちづくりへの必要性が感じられない理由としては、「「まちづくり」とか「コミュニティづくり」というのは、もともと行政（役所）がやるものだ」(41.3%)が最も高く、４割強となった。次いで「地域のことに関心はあるが、自分はかかわりたくない」(30.2%)、「その他」(23.8%）となった。

４．市民センターについて

- 市民センターの利用状況について尋ねたところ、「利用したことがある」(53.0%）が「利用したことがない」(45.2%）を上回った。「利用したことがある」と回答した人の利用頻度は、「月に１回程度」(22.9%）が最も高く、次いで「１年に１回程度」(22.1%)、「半年に１回程度」(18.7%）と続いた。「週に２回以上」、「週に１回程度」、「月に１回程度」をあわせた『月に１回以上』は45.7%と５割弱を占めた。
- 市民センターの主な利用用途は、「地域コミュニティ活動（自治会・町内会・まちづくり協議会）の活動等」(30.1%）が最も高く、約３割となった。次いで「市民センター主催講座の受講」(27.9%)、「古紙・紙パック・トレイ等回収ボックスの利用」(25.9%）と続いた。
- 一方、市民センターを利用しない理由は、「市民センターでどのような活動が行われているかわからないから」(32.8%）が最も高く、３割強となった。次いで「忙しくて市民センターを利用する時間がとれないから」(29.1%)、「市民センターで開催されている行事

や講座等に興味がないから」（18.4%）と続いた。

- 市民センターを利用しない人に、要望するサービスについて尋ねたところ、「魅力的な講座、イベントがある」（35.7%）が最も高く、４割弱となった。次いで「自由に学んだり、活動できる場所がある」（13.1%）、「いろんな情報が入手できる」（12.2%）と続いた。

５．生涯学習について

- 生涯学習で学んだ知識や技術等を、地域や社会の課題解決に活かす方法として望まれるのは、「生涯学習の場（施設など）の整備」（55.2%）が最も高く、６割弱を占めた。次いで「社会貢献（地域活動、ボランティア等）に関する情報提供」（47.0%）、「「学び直し」や新たな学びへの挑戦、学習成果を活かすための環境整備」（45.0%）と続いた。
- 行政や大学、ＮＰＯ、企業、カルチャーセンターなどの学習機会を提供する機関が、相互連携を進めるために望まれる仕組みについて尋ねたところ、「各機関の講座等の情報が手軽に入手できる仕組み」（54.1%）が最も高く、５割強となった。次いで「各機関が相互協力して地域等で活躍できる人材を支援する仕組み」（40.2%）、「各機関が相互協力して賑わいをつくりだす仕組み」（28.7%）と続いた。
- 各機関の相互連携を進める仕組みづくりに必要なことを尋ねたところ、「情報の一元化などアクセスの利便性の向上」（53.8%）が最も高く、次の「各関係機関・団体の意見交換」（17.5%）との差は 36.3 ポイントとなった。以降、「行政、ＮＰＯ、民間事業者等の広報等による連携」（15.8%）と続いた。

６．シビックプライドについて

- 自分が住むまたは活動する身近な地域に愛着を感じているかを尋ねたところ、「とても愛着を感じている」と「まあ愛着を感じている」をあわせた『肯定層』は、81.9%と８割強を占め、「あまり愛着を感じていない」と「愛着を感じていない」を合わせた『否定層』（15.0%）を大きく上回った。
- 自分が住むまたは活動する身近な地域に愛着を感じている『肯定層』に、愛着を感じる理由を尋ねたところ、「自然・風景」（55.8%）が最も高く、６割弱となった。次いで「景観・まちなみ」（49.5%）、「人情味あふれる人々」（38.5%）と続いた。
- シビックプライド醸成のために必要なことについて尋ねたところ、「自分のまちに愛着を感じるフェスティバル、イベントの実施」（52.0%）が最も高く、５割強となった。次いで「子どもの頃からの「シビックプライド」醸成のための教育」（36.1%）、「本市の誇る文化芸術・歴史などの特性を活かした教育の推進」（35.2%）と続いた。

以上、今回調査の要約としてエッセンスをまとめた。

今回の調査では、アンケートを通して、「地域活動」や「自治会・町内会の活動」、「市民センターの活用状況」、「生涯学習と地域連携の仕組み」、「シビックプライドの醸成」に関する市民の見解を知ることができた。

今回の調査結果も踏まえ、「住民主体のまちづくり」の更なる促進に努めてまいりたい。